

最上川中・下流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布

菅原哲文

1 はじめに

本稿では、最上川の中流から下流にかけての地域、具体的には新庄盆地とその周辺地域から日本海沿岸の庄内平野を中心とした地域について、縄文時代中期から後期前葉にかけての遺跡分布と時期的な変遷について検討を行う。これまで、最上川上流域と中流域の縄文時代中期から後期前葉における遺跡分布の検討を行ってきた（菅原 2014・2016）。両地域ともに、中期初頭から中葉にかけて、遺跡数の増加と拠点集落の成立、中期末から後期初頭にかけては遺跡の急激な減少と集落規模の縮小などの傾向が確認された。最上川の下流域でもおそらくは類似した様相が想定されるが、改めて検討を進めることとする。

2 時期区分について

縄文時代中期の時期区分は、最上川下流域についても大木式土器の編年に基づいて時期区分を行うこととする。中期大木式は、大木 7a・7b・8a・8b・9・10 式が設定されており、時期区分はこれに従う。ただし、最上川下流域では、中期前葉に北陸方面の新保・新崎式土器が出土の主体を占める遺跡が多い。また、中期前葉には北東北の円筒上層式土器が出土する遺跡もある。中期中葉になると大木 8a・8b 式が主体で、少量ながら馬高式土器が伴う場合がある。後期前葉の時期区分については、関東地方の堀之内 1 式・2 式に併行する型式として、南境 1 式・2 式を採択して対応する。なお、当地域の後期初頭から後期前葉にかけての土器であるが、太平洋側でみられる南境式と類似する土器、北陸方面の三十稲場式土器に類似する土器、北東北の十腰内 1 式土器に類似する土器など多様なあり方が認められる。

3 対象とする地域と研究の動向

佐藤禎宏氏は最上川流域の縄文時代遺跡分布や領域の研究として、県内の縄文時代中期の遺跡分布を検討し、

分水嶺と水系を基準に県内の縄文時代の集団領域を想定している（佐藤 1981）。最上川流域において、7 つの中遺跡群、21 の小遺跡群に区分し、最上川中・下流域については、Ⅰ庄内平野周辺部、Ⅱ新庄盆地周辺部、Ⅲ向町盆地周辺部を設定し、Ⅰ地域は 7 地域に細分、Ⅱ地域は 3 地域に細分した領域設定を行った。

佐藤庄一氏は朝日村砂川 A 遺跡の報告で（佐藤 1984）、県内の縄文後期・晩期の遺跡分布について、時期的変遷、遺跡分布と集団領域について言及している。後期後葉から晩期にかけて 11 の遺跡の集中地点の存在を指摘し、各々 5 ～ 10km の範囲に収まること、遺跡群の分布範囲は集団領域を意味するものと考えた。

また小林圭一氏は、最上川流域の各地域において、後期から晩期の遺跡分布と立地の傾向について分析している（小林 2001）。

本稿では県内の縄文時代の領域研究をふまえ、遺跡分布の領域について時期毎の分布傾向と変遷、領域内の遺跡の関係を検討する。対象とする地域は最上川中流域のなかでも下流に近い新庄盆地、向町盆地、最上川下流域の庄内平野である。分析する遺跡の所在する市町村は、最上川中流域では、最上地方の 8 市町村（新庄市・最上町・金山町・真室川町・舟形町・大蔵村・戸沢村・鮭川村）、最上川下流域では、庄内地方の 4 市町村（酒田市・鶴岡市・庄内町・遊佐町）である。三川町においては詳細時期が判明する遺跡が把握できなかったため分析対象から除外した。

4 最上川中・下流域の遺跡数と立地傾向

最上川中・下流域（最上地方・庄内地方）の縄文時代中期から後期前葉の遺跡について、土器型式での時期把握が可能な遺跡、おおまかな型式把握が可能な遺跡を対象とし、所在地・地形・標高・帰属する河川流域・細別時期・遺構・遺物の概要について表 10 ～ 18 に記した¹⁾。掲載遺跡数は 188 遺跡で、県で登録されている遺跡が主である。県で未登録であるが市町村の発掘調査報告書

などで掲載された、時期や所在地が特定できる遺跡も採録した。中期・後期など大別時期しか判明しない遺跡は分析対象から除外した。

表1・図1は、最上川中流域（新庄盆地および周辺地域）の時期別の縄文遺跡数を示したものである。表1の上は中期前葉（大木7a・7b式期）・中葉（大木8a・8b式期）・後葉（大木9・10期）・後期前葉（後期初頭・南境1式・南境2式期）の大別時期での遺跡数、表1の下は土器型式区分で集計した遺跡数である。遺跡の時期は、報告で大木7式・8式など細別型式が表記されていないものなどは前葉・中葉などに含めているので、大別時期の対象遺跡数が多くなっている。傾向としては、大木7a式期から大木8a式期にかけて遺跡数の増加が認められ、大木8a式期がピークとなる。大木8b期にはやや急な減少が見られるが、9・10式期にかけて微増し、後期初頭以後は減少していく。大別時期の推移を見ると、最も遺跡数が多くなるのは中期中葉である。

次に表2・図2に示した最上川下流域であるが、大木7a式期では12遺跡と少ないが、7b・8a式期で増加する。大木8b式期はやや減少がみられる。ただし、中期中葉の時期は文献や台帳等で細別型式が大木8式としか表記されていない遺跡が多く、大木8b式期の実際数はより多くなる可能性がある。大木9式期は遺跡数のピークとなり、大木10式期から後期初頭は大幅に減少する。南境1・2式期は遺跡数が少ないままに推移してゆく。大別型式でみれば、最上川中流域と同様に中期中葉に遺跡のピークがみられる。

表3・図3に、最上川流域全体の遺跡数の推移を示した。こちらも大別時期の遺跡数のピークは中期中葉となる。細別時期の遺跡数は、大木7a～9式期にかけて遺跡数の増加が見られ、大木9式期がピークとなる。大木10式期から後期初頭にかけて大幅な遺跡数の減少が見られる。

表4には、最上川中流域の中期初頭から後期前葉にかけての遺跡の消長を示した²⁾。大木7a～7b、7b～8a式期にかけては、出現する遺跡が大半で、次に存続する遺跡が多く、消滅する遺跡は少ない。8a～8b式期にかけては、出現する遺跡が4%台とかなり少なく消滅する遺跡の割合が6割と大きい。大木8b～9式期・9～10式期にかけては出現する遺跡の割合がやや持ち

直す。大木10式期～後期初頭にかけては、継続する遺跡がややあるものの、消滅遺跡の割合は増える。以後も同じ傾向をたどる。

表7には、最上川下流域の遺跡の消長を示した。大木7a～7b式期では、出現する遺跡が6割以上と大半を占める。7b～8a式期では存続する遺跡の割合が高く、次いで出現する遺跡が多い。8a～8b式期でも、存続する遺跡が大半を占める。出現する遺跡よりも消滅する遺跡が若干多い。8b～9式期では出現する遺跡の割合が多い。存続する遺跡と消滅する遺跡は同じ割合である。9～10式期は消滅する遺跡が5割を超える。10式期～後期初頭では、さらに遺跡の消滅が進み、8割もの遺跡がなくなる。

表6・図4は、最上川中流域の地形別遺跡立地を示したものである。遺跡の地形について、山形県刊行の土地分類基本調査に示された地形図に従い、山地・丘陵・台地・段丘・低地などに分類し、各遺跡の立地について時的傾向を検討した。最上川中流域では、大木8b式期を除くどの時期においても、台地・段丘が60～80%、低地が約20%となっている。8b式期においては、台地・段丘、低地とも約47%となっており、他の時期と違った傾向がある。

表9・図5は、最上川下流域の地形別遺跡立地を示したものである。大木7a式期は比較的低地の割合が低く、比較的山地や丘陵の占める割合が高い。大木7b～9式期は低地の割合が一定の割合を占める他、8b式期には台地・段丘にあった遺跡が丘陵や山地へも進出するようである。10式期は、低地の割合が増加し、段丘等の割合は減少する。後期になると、台地・段丘の割合は減少し、山地～丘陵地の割合が高くなる。

表5には、最上川中流域の時期別の遺跡標高分布を示した。最上川中流域では、標高51～100mの地帯にどの時期も遺跡が多い。次いで151～200mの地帯に多いようである。

表8には、最上川下流域の時期別の遺跡標高分布を示した。最上川の下流域であるため、7a～8b式期では最も遺跡分布が多いのが標高50mまでの地帯、次いで51～100mまでの地帯であり、9式期では標高が高い場所への進出も見られるが、100mまでの地帯に遺跡が多く分布する。10式期は0～200mの地帯に分散化

するようである。後期になるとまた、100 mまでの地帯に分布が多くなる。

5 最上川中流域の遺跡分布の様相

最上川中流域の時期別遺跡分布を検討する。図6に最上川中流域（最上地方）の中期前葉から後期前葉にかけての遺跡分布を示した。この地域であるが、中央に新庄盆地が広がり、最上川の支流である小国川上流には向町盆地が広がる。新庄盆地南側には最上川が西流し、鮭川、小国川、銅山川、角川などが合流する。向町盆地は小国川上流域の小盆地である。盆地の東端は奥羽山脈を横切る標高350 mの横谷（境田越）に続いており、太平洋側の地域への交通の要衝となっている。

図6では、遺跡の分布を考慮し、最上川中流域内における、いくつかの地域区分を設定した。

A新庄盆地と周辺部 - 新庄盆地と盆地南端の最上川に合流する支流によって構成される領域である。盆地西側を南流して最上川に合流する鮭川流域、鮭川の支流となる真室川、金山川、泉田川、盆地南側で最上川に合流する升形川などの河川で構成される。新庄盆地の遺跡分布をみると南北に約30km、東西に約20kmほどの広がりがあるため、おそらく泉田川、鮭川の中・下流域、真室川流域、金山川流域などでさらに細分される可能性があると思われる。

B小国川下流域 - 国宝となった「縄文の女神」が出土した西ノ前遺跡が所在する。西流して最上川に合流する。

C銅山川流域 - 銅山川は月山北東麓から流れ最上川に合流する。最上川の西岸で小国川流域に近い。

D角川流域 - 北流し、新庄盆地西端から最上川に入る地点で最上川に合流する。今回の分析対象となる遺跡の分布は少ない。

E小国川上流域 - 向町盆地と小国川へ合流する支流から構成される地域である。中期前半の縄文土器の優品がまとまって出土し、国の重要文化財に指定された水木田遺跡は、この領域に所在する。

図7～図10は、中期の前葉・中葉・後葉期と後期前葉の各時期の遺跡分布を示したものである。なお、遺跡の時期（土器型式）が判別できるように表記した。発掘調査された遺跡については各地域での性格づけを想定

し、未調査でも出土遺物の内容や継続により遺跡の性格づけが可能と思われるものがあれば触れておきたい。以下、各時期と地域毎に遺跡分布の様相を述べる。

（1）中期前葉（大木7a・7b式期・図7）

大木7a式期は発掘調査された遺跡の事例に乏しいが、7b式期では大規模集落の調査事例がいくつか報告されている。

A新庄盆地と周辺部：大木7a式期では、金山川流域での本町（39）、鮭川流域のオクミ館跡（57）、小和田（69）などがあるが、遺跡数が少なく、集落の全容が判明した事例はない。7b式期では、確認された遺跡数が多くなる。泉田川沿いにある中川原C（34）では、7b～8a式期にかけての大規模集落が出現する。集落は10 mを超える大型建物跡と中小規模の円形建物跡で構成され、捨て場が伴い、土偶の出土も多い（山形県埋文2002）。隣接する立泉川（35）、中川原（33）は、当集落に関連する遺跡と思われる。金山川流域では本町が前期から続く。また、鮭川流域沿いにも遺跡が点在している。

B小国川下流域：大木7a式期には、西ノ前（3）、荷渡（9）がみられるが、西ノ前では7a式期の遺構ははっきりしていない。7b式期では、西ノ前、稲場（7）、荷渡がある。西ノ前では住居跡の存在は明確ではないものの捨て場が形成されており、集落が発展していく時期と思われる。土偶の出土も確認され、少量ながら新崎式土器も出土している（山形県埋文1997）。

C銅山川流域：大木7a式期では該当する遺跡は確認されていないが、7b式期では上竹野（11）で遺構が確認されている。

D角川流域：大木7a・7b式期を通して、猪ノ鼻（75）のみの確認で、遺構の内容は不明である。

E小国川上流域：大木7a式期の遺跡は、水木田（21）、細の原（20）がある。水木田では、捨て場において遺物が確認されているが、調査区範囲内では遺構内容がはっきりしない。大木7b式期では、水木田、熊の前（15）がある。水木田では、当期の竪穴住居跡1棟や捨て場が確認された（山形県教委1984）。捨て場からは7b式を中心とする大量の土器が出土し、土偶などの祭祀遺物も伴う。少量ながら円筒上層b式土器・北陸系土器・五領ヶ台式土器などの異系統土器も見られる。遺物内容を

考慮すると、この地域の中心的集落と考えられる。

(2) 中期中葉 (大木 8a・8b 式期・図8)

A新庄盆地と周辺部：鮭川流域とその支流などに沿って遺跡分布が多く見られる。大木 8a 期の遺跡が主であり 8b 式期でなくなる遺跡も多い。

大木 8a 式期では、金山川とその支流に、本町 (39)、藁坊野 (43)、下野明 (42) がある。本町遺跡は中期中葉を中心とする竪穴住居跡 13 棟や土坑、祭壇跡などが確認され (金山町教委 1981)、8b 式期も存続する。この流域の中心的な集落跡と考えられる。鮭川に合流する真室川は、8a・8b 式期にわたる中台 4 (53) が、中田春木川沿いには下中田 (46)、後沢 (47) がある。下中田は 8b 式期も存続する。鮭川の中流には、庭月観音堂 (71)、観音寺 (70)、真木 (66)、上大淵 (68) などの遺跡が点在するが、調査が入った遺跡は少ない。泉田川流域には、泉ヶ丘 (32)、中川原 C (34)、中川原 (33) がある。中川原 C は 7b 式期から存続する大規模集落と考えられ、8a 式期の建物群・土坑群・捨て場・埋設土器群が検出された (山形県埋文 2002)。建物には大型住居が見られ、この地域内の中心的な集落になると思われる。中川原も同時期に存在し、関連する集落であろう。

B小国川下流域：大木 8a 式期の遺跡が多い。西ノ前 (3) を中心に、経壇原 (1)、沖野原 (4)、一本木台 (5)、長者原 (6) などが流域沿いに分布する。西ノ前では、大木 8a 式期を中心とする 9 棟の竪穴住居跡が確認され (山形県埋文 1997)、中央に広場・土坑群、最も外側の段丘縁辺に長方形の大型竪穴住居群が配置されるなど放射状の配置が見られる。土偶が盛んに製作され、「縄文の女神」もこの頃に帰属すると思われる。8b 式期ではピークは過ぎるものの、集落が続いて営まれる。小国川流域の中心的な集落跡である。

C銅山川流域：大木 8a・8b 式期を通じて、白須賀 (13) で遺物の出土が確認される。報告されている土偶や足形付土製品はこの時期に属すると思われる (大蔵村 1999)。山形県文化財に指定されている注口土器は 8b 式期に帰属する。住居跡は報告されていないが、出土遺物の内容から考えると、この地域の中心的な集落になると思われる。上竹野 (11) では、8a 式期の遺物は確認されるが住居跡の有無は不明である。

D角川流域：大木 8a・8b 式期と推定される別当屋敷 (76) があるものの、遺跡内容は不明である。

E小国川上流域：この地域の中期中葉の遺跡数は多い。大木 8a 式期では、水木田 (21) が中心的な集落になると思われる。竪穴住居跡 6 棟・土坑・捨て場が形成されている (山形県教委 1984)。熊の前 (15) でも当期の竪穴住居跡 3 棟が確認されている (山形県教委 1981)。まないた原 (24)、森ノ越 (23) などは派生する集落になるものと思われる。8b 式期では、熊の前、水上 (14) が存続する。

(3) 中期後葉 (大木 9・10 式期・図9)

A新庄盆地と周辺部：大規模集落遺跡は確認されていないが、鮭川とその支流に沿って遺跡が点在する。真室川流域沿いは、発掘調査によって内容が明らかになった遺跡がいくつかある。中台 4 (53) では大木 10 式期の竪穴住居跡 6 棟・土坑・包含層が確認された (山形県埋文 2002)。中台 2 (52) でも中期末～後期初頭にかけての住居跡が確認されている (山形県教委 2001)。釜淵 C (54) では、9・10 式期にかけての竪穴住居群・土坑・埋設土器、中期末から後期前葉にかけてと思われる配石遺構群が確認され (山形県埋文 2003)、この流域の中心的な集落になるものと思われる。中田春木川流域には、9 式期の太郎水野 2 (44)、10 式期の下中田 (46) がある。太郎水野 2 では、段丘面の尾根上に 9 式期の竪穴住居跡が 1 棟だけ確認され (山形県埋文 2008)、キャンプサイト的な性格が想定される。金山川流域では、9 式期に本町 (39) があるが遺構は不明である。片杉野 (60) では複式炉が検出されており 9～10 式期にかけての時期と思われる。藁坊野 (43)、下野明 (42) は 10 式期である。鮭川の中流地域では、小反 (67) において、9 式の新段階～10 式古段階の短い期間であるものの、竪穴住居跡 14 棟・掘立柱建物跡 1 棟などが確認された (山形県埋文 2006)。直径 9 m を超える複式炉を備える住居跡も確認されている。庭月観音堂 (71) では、10 式期と考えられる配石遺構 11 基や立石などが検出された (鮭川村教委 1989)。墓域の一部と考えられ、近接する地点に集落跡も存在するものと思われる。鮭川の下流では、9 式期の向名高 (80)、名高 (74) などがある。向名高では、9 式期から中期末の竪穴住居跡 3 棟が確認されている (山形県教委 1998)。泉田

川流域では立泉川（35）があり、10 式期から後期初頭にかけての遺構や捨て場が確認された（山形県埋文 2002）。捨て場からは 10 式期から後期初頭にかけての土器が層位的に出土している。

B 小国川下流域：この時期に該当する遺跡は不明である。

C 銅山川流域：白須賀（13）で、詳細時期は不明であるが、複式炉が報告されている（大蔵村 1999）。当集落跡は大木 9～10 式期、後期初頭まで存続する。上竹野（11）では 10 式期の遺物が確認されるが遺構は不明である。上竹野 2³⁾（12）では、9～10 式期の遺物が確認される。上竹野 2 ではこの時期の集落跡が存在する可能性が高い。

D 角川流域：この時期に該当する遺跡はまだ確認されていない。

E 小国川上流域：遺跡数は少ない。水上（14）は大木 9 式期の竪穴住居跡が 1 棟確認されており、10 式期から後期にかけて存続する遺跡である（山形県教委 1980 ほか）。げんだい（22）では 10 式期の竪穴住居跡 1 棟が確認されている（山形県 1988）。まないた原（24）も 10 式期である。

（4）後期初頭～前葉（後期初頭～南境 1・2 式期・図 10）

A 新庄盆地と周辺部：把握されている遺跡は、鮭川の上・中流域に多い。真室川流域には、中台 2（52）、中台 4（53）、釜淵 C（54）がある。中台 4 では後期前葉の竪穴住居跡 1 棟が確認されている（山形県埋文 2001）。釜淵 C は、中期末から後期前葉頃と思われる配石遺構群・埋設土器・土坑などが確認されており集落の墓域と考えられる（山形県埋文 2003）。金山川と真室川との合流地点には後期前葉の遺跡が比較的認められるが、遺跡の内容は不明である。より下流の小反（67）では、後期初頭のフラスコ状土坑が確認されている（山形県埋文 2006）。鮭川下流の津谷（77）では、土坑・埋設土器・立石遺構などが確認されており墓域と考えられる（山形県埋文 1997）。集落も隣接地点にあるものと思われる。泉田川流域では、中川原 C（34）と立泉川（35）がある。中川原 C では土坑や柱穴群が（山形県埋文 2007 ほか）、立泉川では竪穴住居跡・墓壇の可能性のある土坑・捨て場が確認された。また北陸の三十

稲場式の影響をうけた土器が多く認められる（山形県埋文 2002、山形県教委 2000 ほか）。両遺跡は距離的に近く、同一集団に利用されていたものと思われる。

B 小国川下流域：この領域の当該期の遺跡ははっきりしていない。

C 銅山川流域：白須賀（13）は後期初頭まで遺物が確認されているが、遺構は不明である。上竹野（11）では、後期初頭から南境 2 式期頃まで土坑などの遺構が認められる（山形県埋文 2015）。

D 角川流域：この時期の遺跡分布は確認されていない。

E 小国川上流域：新庄盆地周辺部に次いで、この領域には遺跡の分布が比較的多い。水上（14）は長期にわたって存続している。後期前葉の竪穴住居跡・土坑・埋設土器などが確認されており、土偶も出土している（山形県教委 1980・1981 他）。かっぱ（17）では南境 1・2 式期の遺物が確認されるが（山形県埋文 2003）、集落の主体は後期中葉に下る。楯の裏（25）は竪穴住居跡も確認されているが、短期間の小規模な集落とされている（最上町教委 1986）。

6 最上川下流域の遺跡分布の様相

次に、最上川下流域の時期別遺跡分布を検討する。図 11 に最上川下流域の中期前葉から後期前葉にかけての遺跡分布を示した。最上川下流域は、日本海に面している沖積平野である庄内平野が広がる。平野の中央を最上川が流れ、その南側には赤川、北側には日向川などが日本海に流れる。平野の西端には庄内砂丘が広がる。平野は北に鳥海山、東に出羽山地、南には月山、摩耶山地などに囲まれる。

図 11 では、遺跡の分布を考察し、最上川下流域における、いくつかの地域区分を設定した。

A 鳥海山南西麓 -庄内平野の北端の、牛渡川・滝沢川・洗沢川・月光川から構成される流域と、南側の日向川とその支流で構成される流域がある。牛渡川流域には、低湿地遺跡で著名な小山崎遺跡や、前期末葉を中心とした大規模集落である吹浦遺跡がある。

B 相沢川周辺 -平野部に入った最上川に合流する相沢川とその北側の新井田川の流域を含める。

C 月山北西麓 -藤島川とその支流の流域にあたる。上流の丘陵地西側縁辺に遺跡が密に分布する。

D 赤川流域 - 赤川上流とその支流で構成される地域で、平野部にかかる段丘上に遺跡の分布が多い。なお、河口近くの砂丘下には黒森遺跡が存在する。

E 大山川流域 - 上流の段丘・丘陵上に遺跡の分布が多くみられる。

F 温海川周辺 - 日本海側の最も南の地区で、西流する鼠ヶ関川、庄内小国川、温海川、五十川などの河川沿いに遺跡分布が見られる。

G 飛島 - 酒田港から北西約 39km の沖合にあり、面積は 2.75k m² である。対馬海流の影響で気候は県内で最も温暖である。所在する遺跡には、北東北や北陸系の土器などが多く認められる。

図 12 ～図 15 には、中期の前葉・中葉・後葉期と後期前葉の各時期の遺跡分布を示した。以下、各時期と地域毎に遺跡分布の様相を述べる。

(1) 中期前葉 (大木 7a・7b 式期・図 12)

A 鳥海山南西麓：牛渡川流域にある小山崎 (116) が大木 7a・7b 式期を通じて認められる。低湿地遺跡であるため、木製品や動植物遺体が残存している。この時期は遺跡内に居住域はなく、同時期に存在する柴燈林 (118)、7b 式期の牛渡 1 (120)、吹浦 (114) に集落があるものと思われる。その他、より南西側の丘陵地には 7b 式期の竜沢山 (126)、月野原 A (108)、物見森 4 (102)、八森 A (101) などが分布する。

B 相沢川周辺：この地域では大木 7a 式期に比定される遺跡は不明であるが、7b 式期では、山楯 3 (90)、山海窯跡群 (89)、山谷新田 (88)、徳田山 (86) などの遺跡が見られる。山谷新田では、新保式土器や北陸系と思われる土偶などが出土している (山形県教委 1991)。隣接する山海窯跡群でも北陸系土器が出土する。

C 月山北西麓：最上川に近接する丘陵地上にある東興野 B (82) で大木 7a・7b 式期の遺構が確認されている。前期から中期にわたって存続する遺跡である (山形県教委 1981)。藤島川の上流で平野西側の丘陵地には、玉川 A (137)、玉川 C (139)、玉川 D (140)、郷の浜 J (134) など、遺跡の分布が密集する。郷の浜 J では円筒上層 a 式や新保式 (山形県教委 1981)、玉川 A では円筒上層 b 式 (柏倉他 1973)、玉川 D は新保式の土器が出土している (山形県教委 1983)。

D 赤川上流域：大木 7a 式期の遺物が野新田 (163) から出土しているが、遺構内容ははっきりしない。7b 式期は比較的分布がみられ、三礎林 (157)、柳沢 A (159)、栗山 (160)、野新田がある。三礎林では 7b 式期の竪穴住居跡 3 棟が確認されている (山形県教委 1976)。

E 大山川流域：時期の明確な遺跡は少ないものの、岡山 (173)、西向 (182)、大木 7b 式期で山口 A (180) がある。岡山は中期中葉にかけて集落が発展するが (山形県教委 1975)、中期前葉でもこの流域の主な集落であった可能性がある。西向は西流する瀬川沿いにあり、中期前葉を中心とした竪穴住居跡が 12 棟確認された。出土土器は北陸系の新保式土器などが主体で、円筒上層 a・b 式土器も伴う (山形県埋文 2004)。

F 温海川周辺：遺跡分布は多くないが、大木 7b 式期と思われる一霞 (185)、川内袋 (183)、家の平 (188) がある。一霞や家の平では北陸系土器が出土している。

G 飛島：大木 7a～7b 式期の蔵山 (93)、7b 式期の葡萄崎 (94) がある。蔵山では遺物包含層が調査され、新崎式や円筒上層 b 式土器など異系統土器の出土割合が多い (山形県教 1993・東北芸術工科大学 2011)。この地域では北陸系土器などは前期から出土が多く認められ、日本海側の地域の移動や交流が頻繁に行われていたことがうかがわれる。

(2) 中期中葉 (大木 8a・8b 式期・図 13)

A 鳥海山南西麓：牛渡川流域、滝沢川、洗沢川流域で遺跡の分布が密に認められる。しかし、細別型式や遺跡内容が明らかになっている所は少ない。牛渡川流域の小山崎 (116) では大木 8a～8b 式期の遺物包含層が存在する。新保式・新崎式・馬高式土器などの北陸系土器が出土する (遊佐町教委 2015 他)。隣接する柴燈林 (118) では、土坑や埋設土器などの遺構が確認されており (遊佐町教委 2005)、集落域を形成するものと思われる。馬高式土器も出土している。その他、8a～8b 式期の竜沢山 (126)、8a 式期の金俣 B (107) がある。

B 相沢川周辺：大木 8a 式期に山海窯跡群 (89)、8a～8b 式期には西山 (91)、山谷新田 (88)、徳田山 (86) など、比較的遺跡の分布が見られる。しかしながら遺跡の内容は不明である。

C 月山北西麓：中期中葉のこの領域は遺跡分布が非常に

多くなる。しかしながら細別型式の把握や遺跡内容が明らかになっていない所が大半で、遺跡相互の関係を把握するのが困難となっている。東興野 B (82) では大木 8a 式期の竪穴住居跡 2 棟・土坑などが確認された。8b 式期でも遺構が認められ、土偶も出土している（山形県教委 1981）。玉川 A (137)、玉川 A' (138)、玉川 C (139) は近接した遺跡群で、この時期に同一集団で形成された集落と思われる。玉川 C では、腹部を抱えるポーズをとる妊婦姿の土偶が出土している（羽黒町教委 1991）。

D 赤川上流域：大木 8a 式期では野新田 (163) がこの時期に存続し、後続する 8b 式期には規模の大きな集落が形成される。竪穴住居跡 50 数棟が検出されており、その大半が 8b 式期になると思われ、埋設土器や墓壇と推定される集石遺構なども認められる（山形県埋文 1996）。より上流には砂川 A (170) がある。この時期の遺構は不明であるが、より上流の拠点となる集落の可能性はある。栗山 (160) では 8b 式期を中心とする竪穴住居跡が 5 棟確認された（山形県埋文 1996）。野新田に距離的に近いとみえ派生した集落と思われる。

E 大山川流域：中期中葉では遺跡分布が増加するが、岡山 (173) 以外に遺跡の内容が明らかになっている所は少ない。岡山では大木 8a～8b 式期と推定される竪穴住居跡が 20 棟以上報告されており（山形県教委 1975 他）、土偶・石棒・石冠などの祭祀遺物も多く、この領域の中心的集落になると思われる。少量ながら馬高式土器などの出土も認められる。8a 式期は、大山川の上流で中里 A (178) が、西側では万治ヶ沢 (179)、火打崎 A (181)、山口 A (180) が認められる。8b 式期では、上流域に桜台 A (174)、関根 C (175)、関根 D (176)、河倉 A (171)、河倉 B (172) が認められる。

F 温海川周辺：五十川流域の川内袋 (183) で遺物が出土している。詳細時期は不明である。

G 飛島：大木 8a～8b 期では葡萄崎 (94)、8a 式期の蔵山 (93) がある。蔵山では遺物包含層より円筒上層 c～e 式土器の出土が報告されている（東北芸術工科大学 2011）。

（3）中期後葉（大木 9・10 式期・図 14）

A 鳥海山南西麓：各流域で遺跡の分布が比較的多く確認される。牛渡川流域の小山崎 (116) では、大木

9～10 式期の竪穴住居群が確認された（遊佐町教委 2008・2009・2010 他）。舟森 (121)、牛渡 1 (120) は 9 式期、小倉向 (123) は 9～10 式期の同じ流域内の遺跡である。神矢田 (127) は 10 式期に出現し、後期へ存続する。月光川流域には宮山坂 A (105)、宮山坂 C (106)、金俣 B (107)、杉沢 C (110) などの遺跡が分布する。日向川流域には泥沢 (95)、荒瀬川流域には大峯 1 (97)、蔵台 (96) がある。蔵台は 10 式期から後期にかけて存続する。

B 相沢川周辺：石名坂 (87)、山谷新田 (88)、西山 (91) などの遺跡が大木 9 式期に認められるが、10 式期には消滅する。遺跡内容ははっきりしていない。

C 月山北西麓：型式が把握されている遺跡が比較的多い。大木 9 式期に多くの遺跡が分布するが、10 式期に消滅するものが多い。玉川 A (137)、玉川 A' (138)、玉川 D (140) は 9 式期で途絶える。標高が 300 m を超える、羽黒山 B (147)、羽黒山 C (148) は 9～10 式期を通じて認められる。下川代 B (144)、早坂 A (142)、中野 (141) は 9～10 式期にかけて認められる。

D 赤川流域：野新田 (163) が大木 8b 式期より継続し、9～10 式期も続く。山形県埋蔵文化財センターの調査では 9 式期の竪穴住居跡（山形県埋文 1996）が、朝日村による調査では複式炉が検出されており（佐々木 1972）、この地域の中心的集落と考えられる。数 km 内には東岩本 (166)、岡村 (161)、笹目 (165) などの遺跡が分布し、関連するものと思われる。また、赤川河口に黒森 (92) があり、9 式期の遺跡として登録されている。中期末にはすでにこの領域は陸地化しており活動領域に含まれていたことがわかる。

E 大山川流域：岡山 (173) は大木 9 式期まで継続するが、10 式期には消滅する。西向 (182) では、10 式期の小規模な竪穴住居跡が 1 棟確認されている（山形県埋文 2004）。流域内では、山口 A (180)、桜台 A (174) が 9 式期にあるが 10 式期に消滅する。上流の河倉 B (172) は 9～10 式期に存続する。

F 温海川周辺：大木 9～10 式期にかけて菅野代 A (184)、木野俣 D (186)、小名部 (187) がある。集落内容は明らかではない。

G 飛島：大木 9 式期で蔵山 (93) があるが、この時期

の詳細は報告されていない。

(4) 後期初頭～前葉（後期初頭～南境1・2式期・図15）

A 鳥海山南西麓：牛渡川流域の小山崎（116）が後期全般にわたって存続する。低地には水場遺構が形成されはじめ、標高が高い丘陵地には後期前葉頃と考えられる竪穴住居などの遺構が構築される（遊佐町教委 2008・2010 他）。舟森（121）は南境2式期になる。南東には神矢田（127）がある。中期末から出現し、後晩期を通じて認められる遺跡である。三十稲場式土器なども出土している。日向川の支流、荒瀬川沿いには、八森A（101）、蔵台（96）がある。八森Aでは南境1式期の埋設土器が報告されている（遊佐町教委 2003）。蔵台では、後期初頭～前葉と考えられる竪穴住居跡8棟が確認されており（山形県埋文 1997）、規模は大きくないものの山間部の集落と考えられる。

B 相沢川周辺：最上川が平野部にかかる地点の丸子沢B（85）のみが報告されている。

C 月山北西麓：この領域では細別時期が明確な遺跡は報告されていない。10式期以降に遺跡が激減するものと思われる。

D 赤川上流域：時期が明確な遺跡は、仲台（162）、欠の上（167）、砂川A（170）である。集落の内容は不明であるが、以後の時期に利用されていく遺跡である。また、上流にあり標高500mを超える田麦俣A（168）、田麦俣B（169）がこの時期に出現する。

E 大山川流域：上流域にいくつか遺跡が認められる。高田A（177）は南境2式期頃に出現し、後期・晩期にわたって継続する遺跡とみられる。その他、後期前葉の万治ヶ沢（179）、河倉B（172）などがある。

F 温海川周辺：川内袋（183）では、土坑などの遺構が確認されている（山形県埋文 2012）。木野俣D（186）、小名部（187）は後期前葉になるが細別時期は不明である。

G 飛島：この時期の遺跡は報告されていない。

7 まとめ

以上、最上川の中流域から下流域における縄文中期から後期前葉にわたる遺跡分布について述べてきた。以下に当地域の傾向についてまとめた。

中期から後期前葉にわたる最上川中流域の遺跡数は、大木7a式～大木8a式にかけて増加し、大木8b式期からは減少傾向となる。また後期も遺跡数は少ない。最上川下流域では8b式期には若干遺跡数が減少するものの、9式期が遺跡数のピークとなる。特に、最上川中域の新庄盆地を中心とした地域は、最上川のさらに上・中流域の他の地域と比べると、遺跡が減少する時期がやや早まるような傾向が考えられる。

遺跡分布の標高であるが、最上川中流域ではそれほど顕著な変化は見られないようであるが、最上川下流域では大木9式や10式期において、他の時期と比較して遺跡の標高の割合が変わる傾向があると思われる。

主要集落の傾向であるが、最上川中流域では、小国川の西ノ前遺跡、小国川上流域の水木田遺跡、新庄盆地の中川原C遺跡、鮭川支流の本町遺跡のように大木7b式期から8a式期にかけて急激に拡大・発展し、8b式期には衰退に向かう集落が多いようである。大木9式期の前半段階の集落はあまり明確ではなく、9式期の後半段階では小反遺跡などのいくつかの事例があるものの、大規模集落を形成するまでには至らない。10式期では釜淵C遺跡などが主要な集落にあげられる。釜淵C遺跡は、中期末から後期にかけてと考えられる配石遺構が集中している。10式期の配石遺構は庭月観音堂遺跡でもまとまって確認されている。10式期は、鮭川を中心とする流域で、墓域を伴う集落が顕著になるとと思われる。後期初頭から前葉は少数の竪穴住居跡が確認されている事例や、釜淵C遺跡や津谷遺跡のように墓域の事例はあるものの、集落構成の全体が明らかになった事例はまだ乏しい。他地域の土器等の出土状況であるが、中期前葉は水木田遺跡などで量的に少ないながらも新崎式土器や、円筒上層b式土器、五領ヶ台式土器などがみられる。北陸系の土器は少量ながらも他の遺跡にも確認される。中期中葉・後葉は、大木式の主体的な分布地域であり、異系統土器は確認されていない。後期初頭になると、三十稲場式土器に類似する土器が比較的多く出土する。また、南境2式期では十腰内1式土器に類似する土器が認められる。

一方、日本海側の最上川下流域では、登録されている遺跡はあるものの、具体的な遺跡内容が明らかになった事例の蓄積がまだ少ない。遺跡分布は平野部の低地には

認められず、平野部外縁の丘陵地や、丘陵地・山地間の河川沿いに認められる。この地域では、中期前葉には北陸系土器の出土が頻繁に確認され、西向遺跡などの温海周辺の遺跡、また東側丘陵地の郷の浜J遺跡、飛島の蔵山遺跡においては主体を占めている。ただし、集落の調査事例は少なく、集落構成では西向遺跡が主な事例である。西向遺跡でも、楕円形状となるやや大型の竪穴住居跡や円形の中・小型の住居跡が見られ、他の中期前半の集落構成と同様の在り方と捉えられる。中期中葉は、遺跡数が大幅に増加し、主な遺跡としては岡山遺跡や野新田遺跡のような墓域を伴う集落が確認される。野新田遺跡は、中・小型の円形を主とする竪穴住居跡で構成される集落で、大型住居群は確認されていない。しかしながら、距離的に近い栗山遺跡で大型の竪穴住居跡が確認されている。この時期は、中期前葉における影響には及ばないものの、馬高式土器や北陸の影響を受けたと思われる土器が出土している。中期後葉では、集落構成が明らかになっている遺跡は少ない。小山崎遺跡で丘陵地に竪穴住居群が確認されているが大きな集落を構成するものではない。後期では、わずかに蔵台遺跡などで集落が確認されているが、まだ不明な点が多い。一方、小山崎遺跡などのように低地に水場遺構などの施設が形成されていく遺跡などもある。後期初頭から前葉の土器については、小山崎遺跡のように、北陸の三十稲場式土器、太平洋側の南境式土器、北東北の十腰内系統の土器など他地域にわたる影響が見られる。

最上川の上・中流域では、中期前葉から中葉にかけては遺跡数の大幅な増加、中期末から後期初頭においては遺跡数の大きな減少が確認されていたが、最上川中・下地域においても同様な現象が確認された。新庄盆地では、遺跡の減少がより早い段階で顕在化しているものと思われる。同じ最上川流域でも、地域によってその影響の反映され方が異なっている。最上川下流域は中期前葉・後期前葉の時期に、北陸・北東北の影響が強く見られる。この時期は大規模集落がほとんど認められない。中期中葉・後葉では最上川流域の在地の土器である大木式土器が主体的となり、異系統土器の出土は乏しくなる。特に中期中葉は継続的で大規模な集落が成立しており、遺跡数が多くなる時期である。

以上のように最上川の各流域において、遺跡分布の時

期的な変遷を検討してきた。中・下流域では調査遺跡数の状況もあり、時期によっては様相が不明瞭な領域もあった。これまでに県や市町村で蓄積された試掘資料等の再検討・再提示なども望まれるところである。また、最上川下流域の庄内平野にはほとんど遺跡分布が見られないが、埋没して未発見の遺跡も当然存在するものと思われる。庄内砂丘下も、黒森遺跡のように縄文中期末の遺跡もあり、周辺にも関連する未発見の遺跡も存在する可能性がある。今後、これらの低地の遺跡の把握や解明が進むことも期待したい。

註

- 1) 遺跡一覧表の時期の表記であるが、「○」は報告書などでその時期に比定される事を表す。「◎」は、その時期の遺構が存在することを表す。「●」はその時期に住居跡が検出されていることを表す。「―」は細別型式が不詳であることを示す。例えば、中期前葉に比定されるが型式が不詳である際は、7a・7b式の欄に「―」を入れている。また表の作成にあたり、引用・参考とした報告書や文献について、本来は引用文献の欄に記すべきであるが、紙面の制約もあり、「文献」の欄に略記した。本文中で引用した報告書出典も文献欄に略記した。
- 2) ある遺跡で大別時期のみ把握されている時期で、その前あるいは後について型式が判明している場合についても（例えば細別型式不明で中期中葉の時期があり、その前の7b式、後ろの9式に遺跡が存在する場合など）、集計に含めている。
- 3) 上竹野2遺跡は、上竹野遺跡のすぐ南側に位置し、従来は上竹野遺跡の一部として考えられていた。しかし、地権者の三条竹美氏の保管されている遺物の確認や、大蔵村教育委員会との現地の確認などにより別遺跡として認識されることとなった。新規遺跡として平成28年11月25日に県で登録されている。

引用文献

- 小林圭一 2001「最上川流域における縄文時代後・晩期の遺跡分布」『山形考古』第7巻1号 pp.21-81
- 佐藤庄一 1984「第Ⅵ章第三節 山形県における縄文時代後・晩期の遺跡分布」『砂川遺跡発掘調査報告書』朝日村教育委員会 pp.198-201
- 佐藤禎宏 1981「山形県における縄文領域論のための基礎作業」『さあべい』第3巻・第3号 pp.1-22
- 菅原哲文 2014「最上川中流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」『研究紀要』第6号 pp.27-48 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 菅原哲文 2016「最上川上流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」『研究紀要』第8号 pp.50-70 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

表1 最上川中流域の時期別遺跡数

時期	中期前葉	中期中葉	中期後葉	後期前葉
遺跡数	28	47	27	24

中期						後期			
時期	大木7a	大木7b	大木8a	大木8b	大木9	大木10	初頭	南境1	南境2
遺跡数	9	23	40	15	16	21	12	9	6

表2 最上川下流域の時期別遺跡数

時期	前期前葉	前期中葉	前期後葉	後期前葉
遺跡数	20	63	51	23

中期						後期			
時期	大木7a	大木7b	大木8a	大木8b	大木9	大木10	初頭	南境1	南境2
遺跡数	12	28	31	28	45	23	5	7	8

表3 最上川流域(全体)の時期別遺跡数

時期	中期前葉	中期中葉	中期後葉	後期前葉
遺跡数	178	387	325	172

中期						後期			
時期	大木7a	大木7b	大木8a	大木8b	大木9	大木10	初頭	南境1	南境2
遺跡数	72	162	207	221	237	162	33	61	45

図1 最上川中流域の時期別遺跡数グラフ

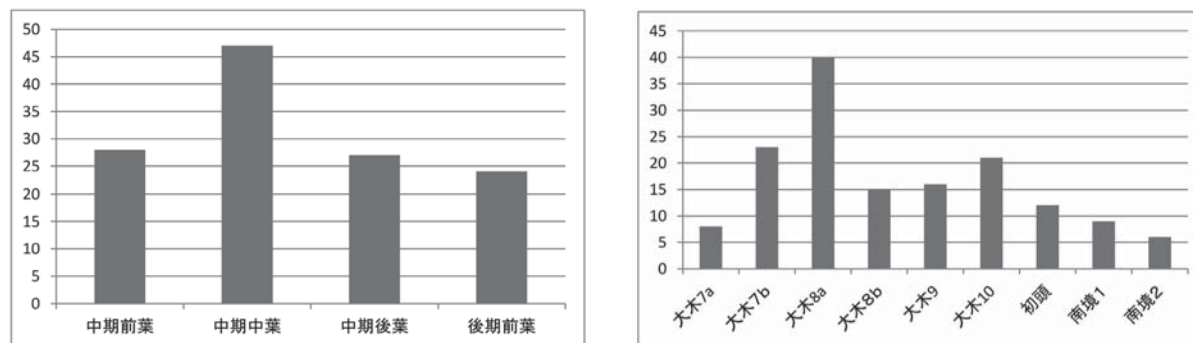


図2 最上川下流域の時期別遺跡数グラフ

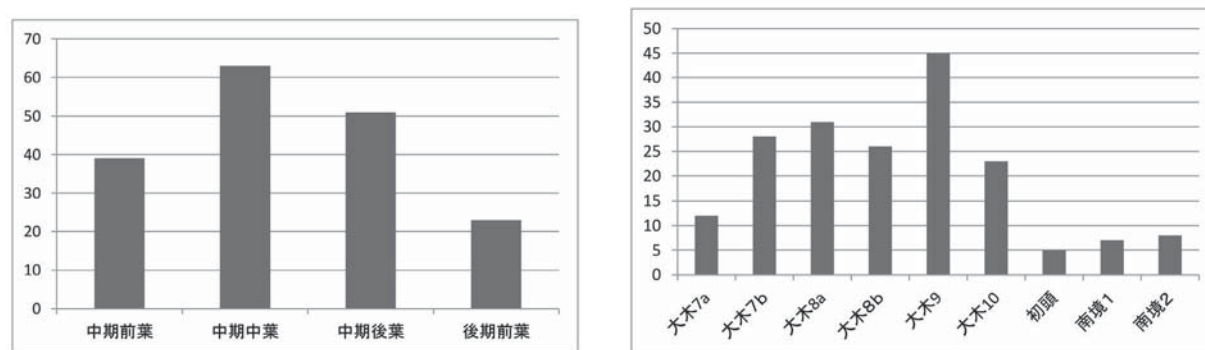


図3 最上川流域(全域)の時期別遺跡数グラフ

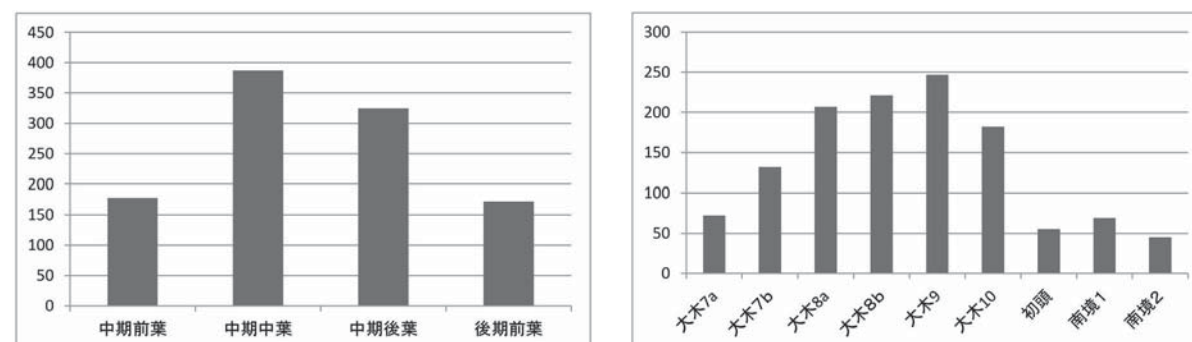


表4 最上川中流域の時期別遺跡消長

	7a~7b	7b~8a	8a~8b	8b~9	9~10	10~後期前葉	後期前葉~後期1~2	後期1~2
新検	3	14	13	4	10	10	6	3
	19.2%	25.57%	30.95%	14.57%	37.04%	45.45%	40.00%	50.00%
出現	15	20	2	12	11	2	3	1
	69.23%	52.05%	4.76%	44.44%	40.74%	2.73%	20.00%	10.00%
消滅	2	2	27	11	6	11	4	4
	11.54%	10.26%	64.29%	40.74%	22.22%	47.27%	40.00%	40.00%
計	20	36	42	27	27	23	16	8
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表5 最上川中流域の時期別遺跡標高

	7a	7b	8a	8b	9	10	後期前葉
0~50m	2	3	4	1	2	1	0
51~100m	3	8	14	4	7	7	9
101~150m	0	4	6	3	2	4	6
151~200m	3	6	9	4	1	4	4
201~250m	0	2	5	3	3	3	4
251~300m	0	0	2	0	1	2	1
301~350m	0	0	0	0	0	0	0
351~400m	0	0	0	0	0	0	0
	8	23	40	15	16	21	24

表6 最上川中流域の時期別遺跡立地

	山地	山地~丘陵	丘陵	台地・段丘	低地	その他	合計
7a	0	1	0	3	2	0	6
	0.00%	12.50%	0.00%	37.50%	25.00%	0.00%	100.00%
7b	0	0	0	15	4	0	19
	0.00%	0.00%	0.00%	78.95%	26.32%	0.00%	100.00%
8a	1	0	0	23	10	0	34
	2.94%	0.00%	0.00%	67.65%	29.41%	0.00%	100.00%
8b	0	0	1	7	3	0	11
	0.00%	0.00%	9.09%	63.64%	27.27%	0.00%	100.00%
9	0	0	0	12	3	0	15
	0.00%	0.00%	0.00%	80.00%	20.00%	0.00%	100.00%
10	0	0	0	15	3	0	18
	0.00%	0.00%	0.00%	83.33%	16.67%	0.00%	100.00%
後期前葉	0	0	0	15	3	0	18
	0.00%	0.00%	0.00%	83.33%	16.67%	0.00%	100.00%

図4 最上川中流域の時期別遺跡立地グラフ

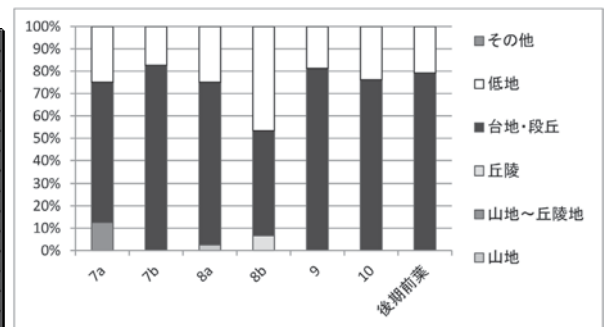


表7 最上川下流域の時期別遺跡消長

	7a~7b	7b~8a	8a~8b	8b~9	9~10	10~後期前葉	後期前葉~後期1~2	後期1~2
新検	7	20	21	13	17	3	3	3
	21.21%	48.28%	52.38%	22.41%	33.33%	12.00%	71.43%	25.00%
出現	21	13	7	32	6	2	2	5
	69.69%	31.71%	17.95%	58.17%	11.11%	8.00%	28.57%	41.67%
消滅	2	2	12	13	20	20	0	4
	15.15%	19.81%	30.00%	22.41%	33.33%	80.00%	0.00%	33.33%
計	29	41	40	58	51	25	7	12
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表8 最上川下流域の時期別遺跡標高

	7a	7b	8a	8b	9	10	後期前葉
0~50m	6	15	13	13	14	4	3
51~100m	5	9	8	7	12	5	3
101~150m	1	1	3	3	9	4	2
151~200m	0	0	1	6	4	4	3
201~250m	0	0	0	1	1	1	1
251~300m	0	2	1	1	3	3	2
301~350m	0	1	0	1	0	0	0
351~400m	0	0	0	0	2	2	0
401m~	0	0	0	0	0	0	2
	13	28	25	28	45	28	22

表9 最上川下流域の時期別遺跡立地

	山地	山地~丘陵	丘陵	台地・段丘	低地	その他	合計
7a	3	1	2	4	1	0	11
	27.27%	8.33%	16.67%	36.36%	9.09%	0.00%	100.00%
7b	5	5	4	9	5	0	28
	17.86%	17.86%	14.29%	32.14%	17.86%	0.00%	100.00%
8a	4	5	6	8	2	0	25
	16.00%	20.00%	24.00%	32.00%	8.00%	0.00%	100.00%
8b	2	6	3	5	5	1	22
	9.09%	27.27%	13.64%	22.73%	22.73%	4.55%	100.00%
9	5	3	5	14	2	5	44
	11.36%	6.82%	11.36%	31.82%	4.55%	11.36%	100.00%
10	5	3	0	5	2	2	17
	29.41%	17.65%	0.00%	29.41%	11.76%	11.76%	100.00%
後期前葉	5	3	1	2	5	0	16
	31.25%	18.75%	6.25%	12.50%	31.25%	0.00%	100.00%

図5 最上川下流域の時期別遺跡立地グラフ

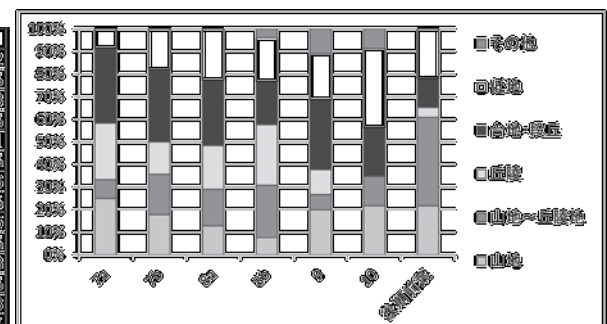






図7 最上川中流域の縄文時代中期前葉の遺跡分布（国土地理院発行 20 万分の 1 地形図「仙台」・「新庄」を使用）

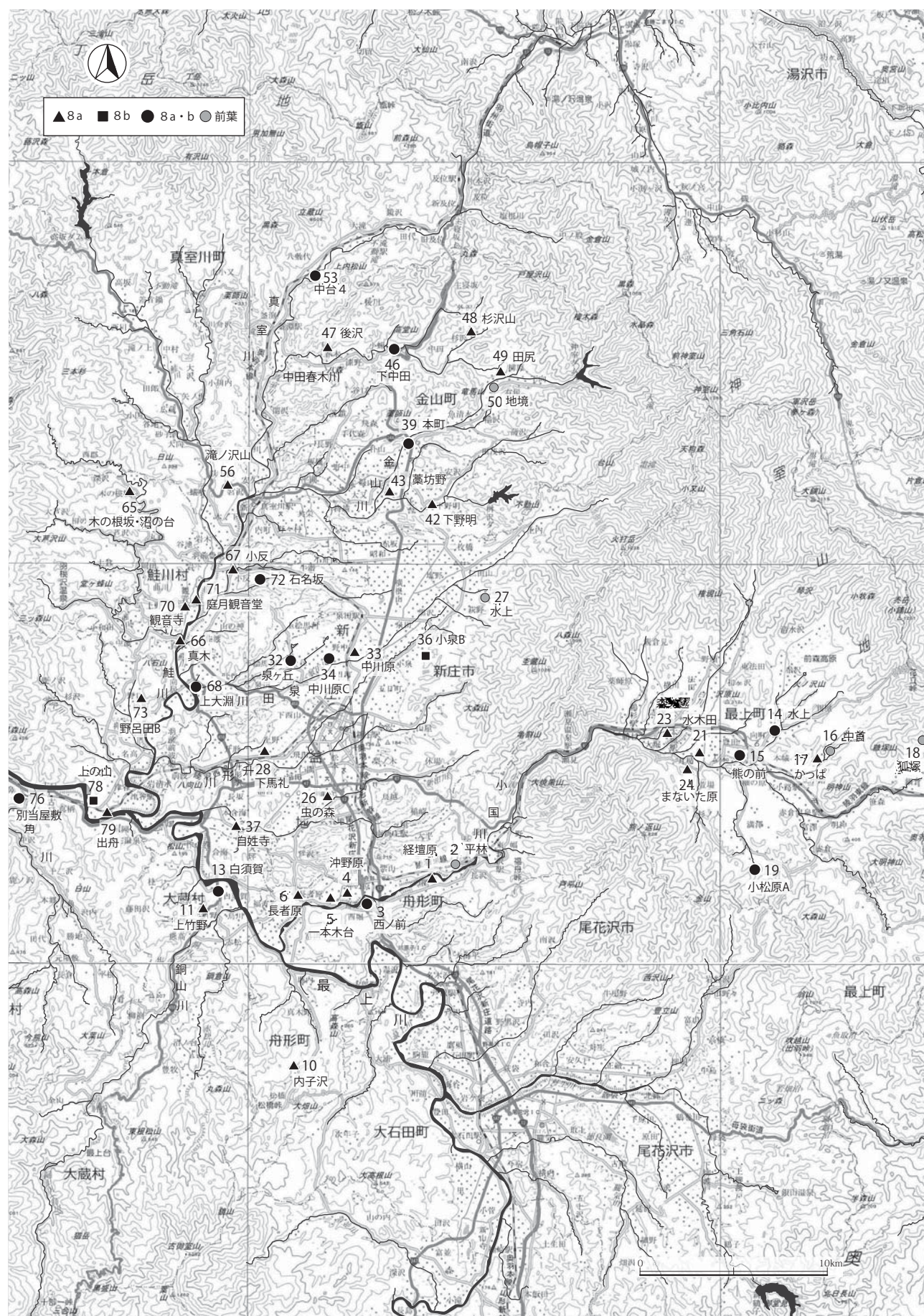


図8 最上川中流域の縄文時代中期中葉の遺跡分布

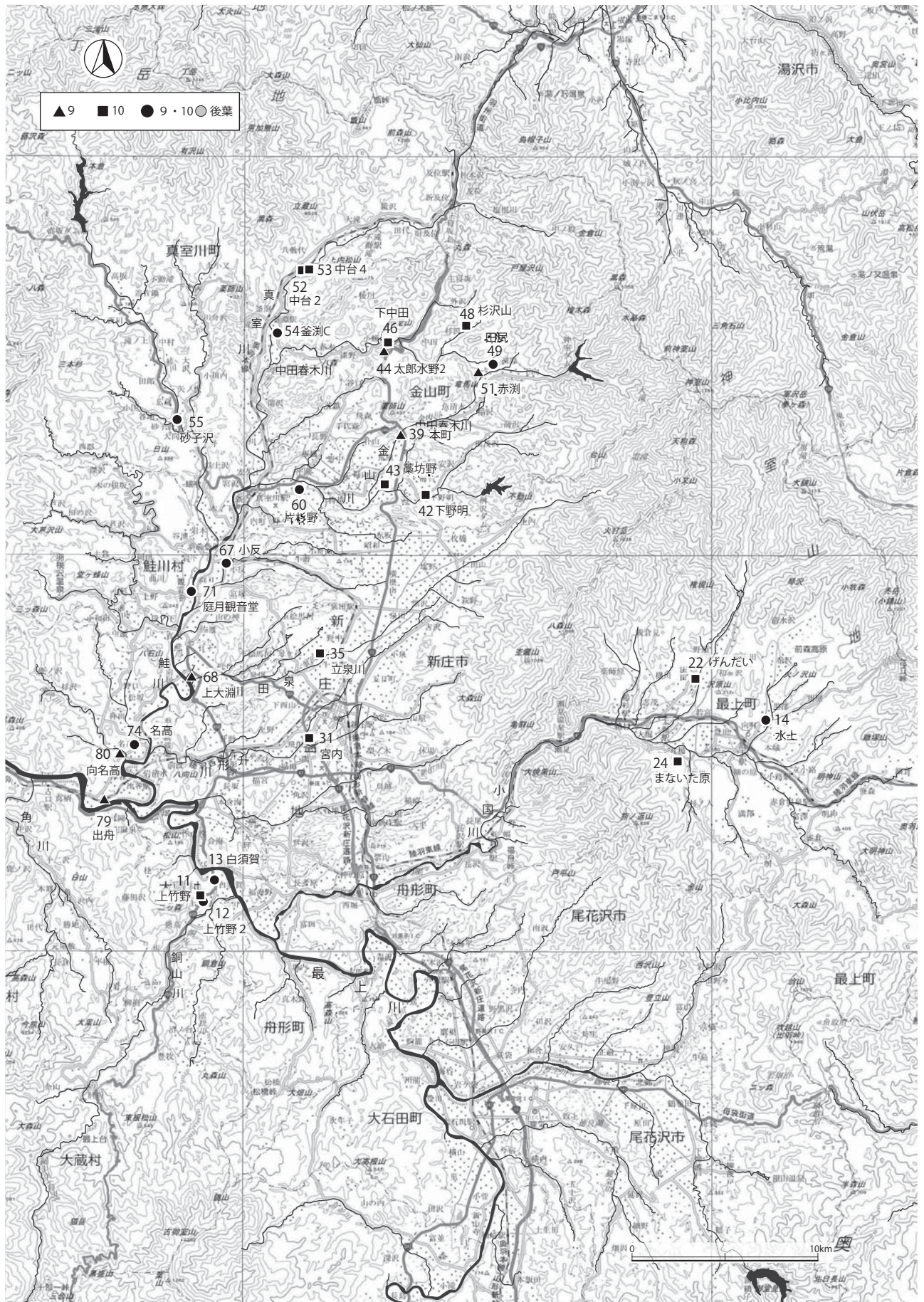


図9 最上川中流域の縄文時代中期後葉の遺跡分布



図10 最上川中流域の縄文時代後期初頭～前葉の遺跡分布

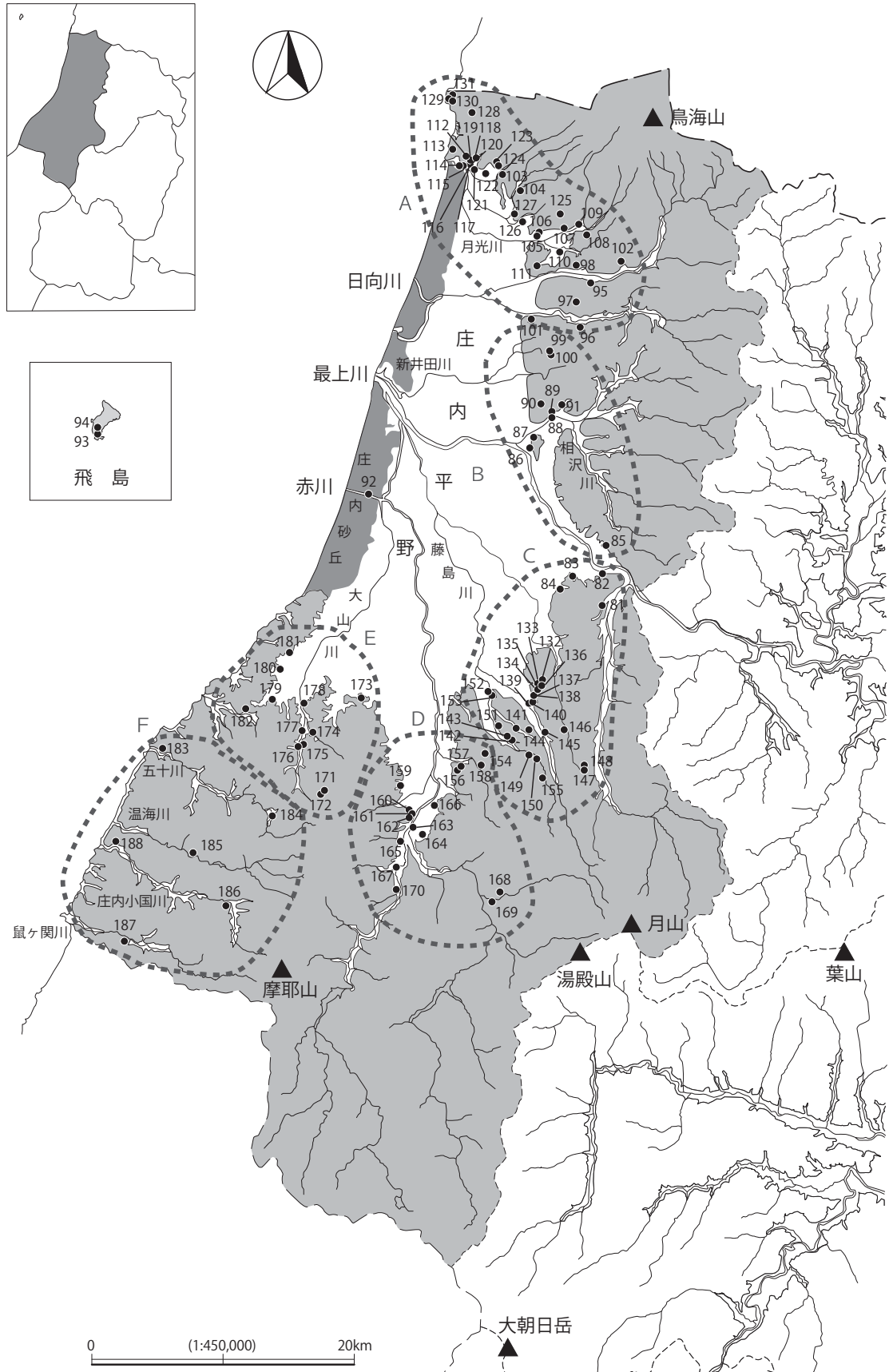


図 11 最上川上流域（庄内地方）の縄文時代中期前葉から後期前葉の遺跡



図12 最上川下流域の縄文時代中期前葉の遺跡分布



図 13 最上川下流域の縄文時代中期中葉の遺跡分布

64

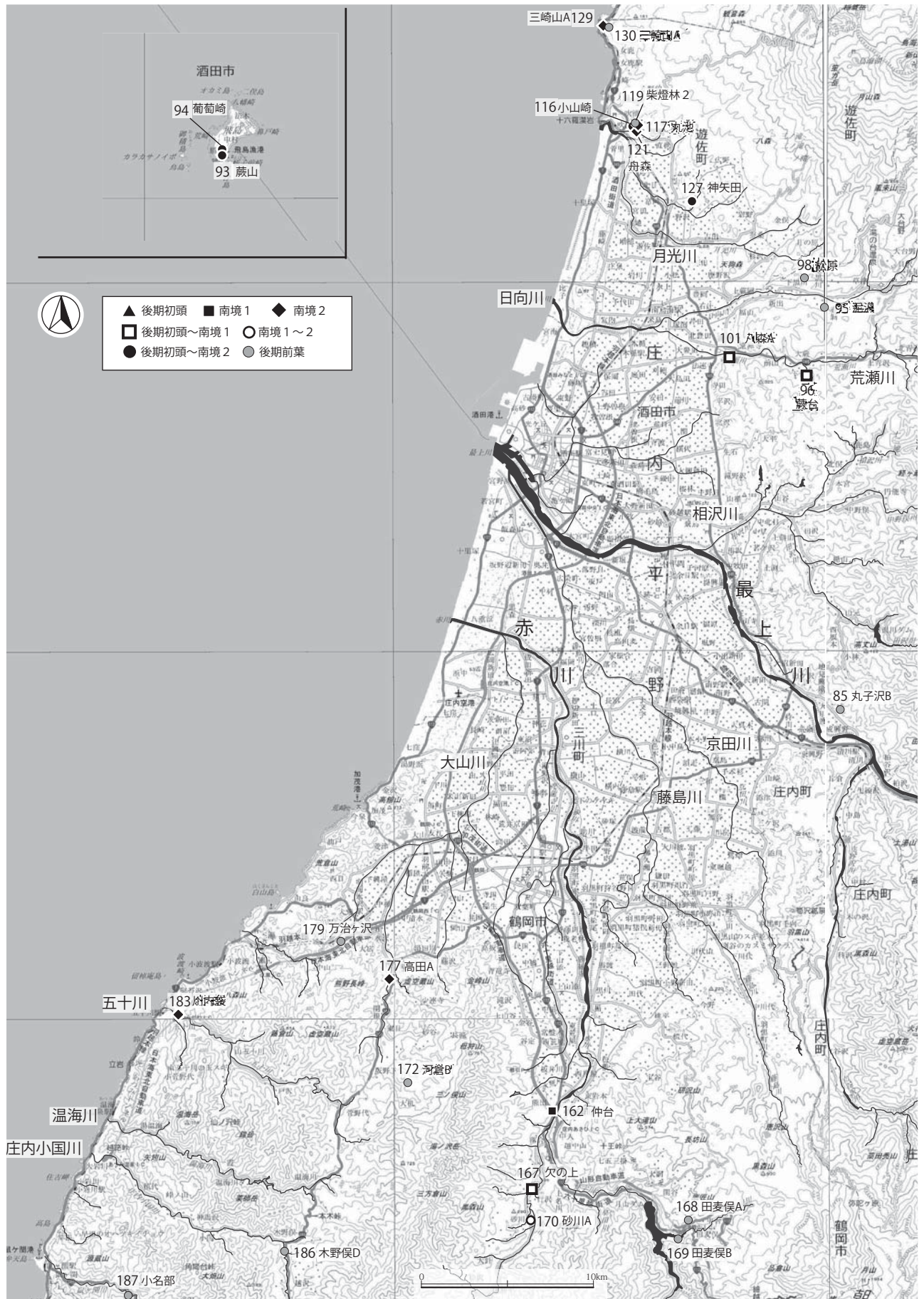


図 15 最上川下流域の縄文時代後期初頭～前葉の遺跡分布

表 10 最上川中・下流地の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期	7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南1	南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
1	363-026	経壇原	舟形町大字長沢字経壇原	段丘 (III)	70	小国川				○							/ 石器・土偶 / 土器・石器・石剣・勾玉・土偶 (時期不明) / 晩期もあり、S43年に配石 遺構・居跡等が確認	県遺跡台帳 県遺跡台帳
2	363-032	平林	舟形町大字長沢字内山 4913	段丘 (II)	70	小国川				—	—							県遺跡台帳
3	363-027	西ノ前	最上郡舟形町舟形字西ノ前	段丘 (III)	72	小国川		○	◎	●	●							竪穴住居 9 (大木 8a・7・8b-1)・土坑 200 以上 / 土器・新崎式 (少量)・ 石器・土偶 46 (7b・8b)・耳栓 10・甕状土製品 7 以上・石構 6・石蔵 2・ 甕形石器 3・スプーン状土製品 1・スタンブ状土製品 1・石製透身・遺 物 900 箱 / 大形住居を放射状に配置する集落構成・土偶は国宝に指定、 「縄文の女神」は全国最大 / 土器・石器・遺物 4 箱 / 遺跡確認調査・18 か所のトレンチを設定 県分布 (40) し遺構の確認
4	363-018	沖野原	舟形町大字沖ノ原	段丘 (II)	90	小国川				○								県史考古資料
5	363-016	一本木台	舟形町大字長者原字原田山	段丘 (II)	90	小国川				○								県遺跡台帳
6	363-021	長者原	舟形町大字長者原	段丘 (III)	60	小国川				○								県遺跡台帳
7	363-023	稲場	舟形町大字長者原	段丘 (III)	55	小国川				○								県遺跡台帳
8	363-004	麁形	舟形町大字麁形	段丘 (III)	60	最上川		—	—									大蔵村史
9	363-013	荷渡	舟形町大字富田字荷渡	段丘 (III)	50	最上川		○	○									県遺跡台帳
10	363-002	内子沢	舟形町大字堀内字西又	小起伏山地	145	内子沢川				○								県遺跡台帳・県分布 (19)
11	365-004	上竹野 (H27 センター 1 次) (H28 センター 2 次)	大蔵村大字清水字上竹野	段丘 (III)	70	銅山川		◎	○	○				○	◎	◎		県遺跡台帳・大蔵村史 竪穴住居 2 (後期後葉)・土坑 (中期前葉・後期前葉) / 土器・石器 / 主 体は弥生時代の遺構と遺物
12	番号なし	上竹野 2	大蔵村大字清水字上竹野	段丘 (III)	70	銅山川				○	○							上竹野第 2 次説明資料 土坑 / 土器・石器 / 主体は弥生時代の遺構と遺物
13	365-002	白須賀	大蔵村大字清水字白須賀	段丘 (III)	70	銅山川				○	○	○	○	○				土器・石器・土偶・石構 / 大蔵村史で上竹野遺跡出土と報告された が別遺跡と判明、主体は中期後・末葉 模写図が検出 / 土器片・石器・土偶 (中期中葉)・石冠・足形付土製品 / 注口土器 (8b) が県文化財
14	362-046	水上 (県 1 次) (県 2 次) (県 H22 調査)	最上町大字向町字水上	扇状地	225	絹出川				○	○	●	○	○	◎	●		竪穴住居 (大木 9・1・宮戸 1b・3・後期その他・2) / 土器・石器・土偶 12 (後期前葉・中葉)・耳栓 2・円盤状土製品・石刀 1・遺物 60 箱 / 県 27 集 ほとんどは後期前葉の遺構 / 土器・石器・耳飾 3・土偶 1 (中期後葉)・県 40 集 遺物 70 箱 / 前期の遺構あり
15	362-023	熊の前	最上町大字向町字熊の前 103 (ほか)	扇状地	201.5	小国川		○	●	○								土坑 5・埋設土器 1 (後期初)・柱穴 / 土器・円盤状土製品 / 県分布 (38)
16	362-036	中首	最上町大字立小路字牛首	山地・火山地 および丘陵地	270	墨沢川・ 仏沢川				—	—							竪穴住居 3 (大木 8a)・土坑・ピット / 土器・石器・石棒 1 (中期)・遺物 90 箱 / 県 34 集 / 土器 / 県遺跡台帳
17	362-019	かつば	最上町大字富沢字合羽	扇状地・崖・自 然堤防	248	小国川				○				◎	◎	◎		竪穴住居 7 (後期中葉)・掘立柱 7 (堀之内 1～加曾利 B2)・埋設土器 2 (後期中葉)・配石 1 (後期中葉)・包含層 1 (堀之内 1・2・加曾利 B1・2)・ 旧河跡 1 (8a・堀之内 1・2・加曾利 B1・2) 他 / 土器・石器・土偶 18 (後期中葉)・耳飾 1・スタンブ状土製品 1・円盤状土製品・線刻縹 1・ 石刀 1・石棒 1・石剣 1・遺物 467 箱 / 住居跡は加曾利 B2 式期が中心 で掘立柱も 7 棟検出
18	362-009	狐塚	最上町大字界田字狐塚	山地・火山地 および丘陵地	360	明神川				—	—							/ 土器 / 後期中葉・晩期前葉もあり 県遺跡台帳
19	362-038	小松原 A	最上町大字満沢字広面	扇状地・崖・自 然堤防	250	背坂川				○	○							/ 石器 / 県遺跡台帳
20	362-037	細の原	最上町大字満沢字細の原	山地・火山地 および丘陵地	200	小国川		○										/ 土器 / 県遺跡台帳
21	362-001	水木田	最上町大字月橋字水木田	段丘 III	188	小国川		○	●	●				—	—	—		竪穴住居 8 (大木 7b・1・8a・6)・土坑 12 (7b・8a)・集石 2 (中期か) / 土器・ 円筒上層 b 式・五領台式・新崎式・石器・土偶 17 (中期前葉)・三脚土 製品 1 (中期前葉)・土玉・石冠 2 (中期前葉)・土製耳飾 4 (中期前葉)・ 石棒・遺物 1000 箱 / 大木 7b 式を中心とする一括土器が注目される。 報告遺物は国指定文化財。

表 11 最上川中・下流域の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南 1	南 2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
22	362-041	げんだい	最上町大字法田字道合	段丘Ⅲ	216 ～ 219	白川						◎	○			竪穴住居 2・土坑・埋設土器 22(大木 10・1 他は晩期前葉)・包含層・ピット・土器・石器・土偶 7 版・スタンブ型土製品・石棒 10・石剣 2・県 128 集 石刀 5・土玉・表飾品・土製品・石製品は晩期・遺物 126 箱 /	
23	362-021	森ノ越	最上町大字志茂字森ノ越	段丘Ⅲ	187	白川			○							土坑 11・ピット / 土器 / 後期中葉もあり / 土器・石器 /	県分布 (13)
24	362-003	まないた原	最上町大字月橋字壺場	台地および段丘・ 火砕流	280	杉入沢川			○			○				竪穴住居 1・土坑 5 (以上は後期前葉) / 土器・石器・円盤状土製品・円 盤状土製品 / 後期前葉の短期間に営まれた集落跡	最上町 1 集
25	362-004	橋の裏	最上町大字月橋字熊ノ前・橋の裏 火砕流	段丘 (Ⅲ)	200	小国川			○				◎	◎		/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (9)
26	205-030	虫の森	新庄市大字萩野字上	扇状地	89	新田川			—	—	—					/ 土器 /	県遺跡台帳
27	205-076	水上	新庄市大字萩野字水上	扇状地	223	泉田川			○							/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (9)
28	205-116	下馬札	新庄市大字升形字上ミ野	段丘 (Ⅲ)	85	升形川			○							/ 土器・石器・耳飾 /	県遺跡台帳・県分布 (9)
29	205-113	下上野	新庄市大字飛田字狐橋	段丘 (Ⅲ)	89	升形川			—	—						/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (9)
30	205-111	上野	新庄市大字飛田字上野	段丘 (Ⅱ)	90	升形川			○							/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (9)
31	205-105	宮内	新庄市五日町字宮内 589 他	段丘 (Ⅲ)	90	指首野川			○			○	—	—		竪穴住居 1 (晩期不明) / 土器・石器・石棒・石剣・石皿・勾玉・小玉・遺 物 12 箱 (晩期が中心) / 晩期前葉主体	県遺跡台帳・県分布 (11)
32	205-052	泉ヶ丘	新庄市十日町字冷水沢	段丘 (Ⅰ +)	110	泉田川			○	○	○					/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・分布調査報 告書 (9)・(24)
33	205-042	中川原	新庄市十日町字中川原	台地および段丘・ 段丘 (Ⅱ)	132	泉田川			○	○	○					/ 土器・石器 / 昭和 46 年の調査で炉跡・円形の住居跡 1 基確認。	県遺跡台帳・県分布 (9)×(24)
34	205-059	中川原 C	新庄市大字十日町字中川原	段丘 (Ⅱ)	114	泉田川		●	●	○			◎	◎		建物跡 22 (7b ～ 8a)・土坑 16 以上 (8a 中心・後期初頭・前葉)・埋設土 器 35 (8a 中心)・配石 1 (後期前葉)・包含層 3 (7a ～ 8a)・陥穴 19 (8a 式以前・一部は中世)・土器・石器・土偶 41 (7b ～ 8a)・有孔土製円盤・センター 98 集 目録 4・有孔釜身 4・埴形石器 1・石棒 5・石皿 4・石鍾・勾玉未成品 1・ 線刻燼 1・遺物 1060 箱 / 大木 7b から 8a 式の漆を伴う基幹集落。	
35	205-097	立泉川	新庄市大字十日町字立泉川	段丘 (Ⅱ)	115	泉田川		○				◎	◎			土坑 8 (後期前葉)・包含層 1 (中期・後期)・ピット群 (後期)・小河川跡 2 / 土器・石器・石鍾 (後期)・管状土製品 (中期)・遺物 18 箱 / 後期初頭 ～ センター 169 集 前葉の土坑群や柱穴群が確認。	
36	205-015	小泉 B	新庄市大字五日町字小泉	丘陵地 (Ⅱ)	160	指首野川										包含層 2 (大木 10 ～ 後期初頭) / 土器・三十稲場式・石器・土偶 3・耳栓 センター 98 集 2・円盤状土製品・スタンブ型土製品 1・遺物 150 箱 /	県分布 (25)
37	205-066	自姓寺	新庄市大字本合海字自姓寺	段丘 (Ⅲ)	59	新田川										土坑・柱穴 (中期末～後期) / 土器・石器 /	県分布 (26)
38	361-008	三代刈	金山町大字金山字羽陽 946	扇状地・崖維・ 自然堤防	170	金山川										竪穴住居 1 (後期初頭?)・土坑 60 (中期末～後期初頭)・土器・石器・ 遺物 5 箱 / 中期末から後期初頭集落・墓の可能性がある土坑 / 土器 (中期末～後期初)・石器・遺物約 100 箱 /	県分布 (27)
39	361-020	本町	金山町大字金山 556 ～ 564-2	低位段丘面	170	金山川		○	○	●	●	○				/ 土器・石器・石棒 /	県分布 (9)
40	361-005	安沢	金山町大字下野明字安沢	高位・中位段丘面	190	上台川										/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
41	361-032	明安小前	金山町大字下野明 396-1	低位段丘面	159	上台川										/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
42	361-033	下野明	金山町大字下野明 631 ～ 637	低位段丘面	160	上台川						○				住居跡あり (晩期不明) / 石器・石棒・土偶 2 (7b・8a) /	県遺跡台帳・金山町史
43	361-031	蘆坊野	金山町大字山崎字蘆坊野 1043	低位段丘面	160	上台川						○				/ 石器・石棒・独鈷石・多頭石斧 /	県遺跡台帳
44	361-023	太郎水野 2	金山町大字下中田字太郎水野 770-47 ほか	高位・中位段丘面	218	中田春木川						●				竪穴住居 2 (大木 9・大洞 81)・土坑 11 (中期・後期末～晩期前・中葉) / 土器・石器・線刻燼 / 中期末と後晩期の竪穴住居跡を検出。キャンブ サイトの性質。旧石器出土。	センター 166 集

表12 最上川中・下流地の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期							後期	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
							7a	7b	8a	8b	9	10	初頭	南1	南2	
45	361-027	太郎水野1	金山町大字下中田字太郎水野544-4他	高位・中位段丘面	215～218	中田春木川								—	—	土坑 18(前期・後期前葉・後期・陥穴4(前期)/土器・石器・前期を中心とした陥穴や土坑群が検出。狩猟場及びキャンプ地と想定。 土坑(晩期)・埋設土器(後期初頭)・捨て場 5(中期中葉・末・後期初頭・中期末～後期初頭・晩期)土器・石器・石構(中期)・石製垂飾品(時期不明)センター 166集、金山町史 / 中期・後期・晩期にわたる捨て場あり
46	361-009	下中田	金山町大字中田字下中田	扇状地	165～167	中田春木川			◎	◎		◎	◎			県分布(35)
47	番号なし	後沢	金山町大字添野字春木	低位段丘面	155	中田春木川			◎							金山町史・県史考古資料
48	361-017	杉沢山	金山町大字中田字杉沢515	扇状地・崖壁・自然堤防	250	中田春木川			◎	◎	◎	◎				県史考古資料・県分布(9)
49	361-013	田尻	金山町大字有屋字長の沢 1744～1784	低位段丘面	275	金山川			◎	◎	◎	◎				県史考古資料・県分布(26)
50	361-003	地境	金山町大字有屋字地境 539 他	谷底平野・氾濫原・低湿地	265	金山川			—	—			—	—		県分布(9)・金山町史
51	361-002	赤洲	金山町大字有屋字赤洲 225 他	低位段丘面	240	金山川					◎				//	県分布(9)
52	364-045	中台2	真室川町大字釜淵字中台	低位段丘面	150	真室川						◎	◎			竪穴住居(中期末～後期初頭)・土坑 //
53	364-048	中台4	真室川町大字釜淵字中台	低位段丘面	152	真室川		◎	◎	◎		◎	◎			竪穴住居8(大木8a・1・大木10・6・後期前葉-1)・土坑90・包含層(中期末葉・後期前葉) / 土器・石器・石構が多数・スプレーン状土製品・石構破片6・遺物70箱 / 大木10式期の住居跡が6棟
54	364-006	釜淵C	真室川町大字釜淵775字五郎前・館	谷底平野	125	塩根川					●	●		◎		竪穴住居11(大木9・1・10・7・中期末-3)土坑8以上(中期末～後期前葉・晩期)・埋設土器17(中期末～後期前葉)・配石33(中期末～後期)・包含層2(晩期)/土器・石器・土俵15(大木10・1・後期末-1・その他は動物形土製品2(晩期)・土版11(晩期)・耳飾21(晩期)・土玉1・管状土製品2・スプレーン状土製品2・異形石器(晩期?)・石構17(中期末-3)他は中期後葉～後期前葉)・石剣37(晩期)・岩板4(晩期)・玉類・有孔石製品16・独鈷石4(晩期)・石冠3(時期不明)・線刻鏤4(晩期) / A区で中期末の住居群、中期末～後期前葉と推定される配石遺構群が確認。B・C区遺物包含層から晩期の大量の遺物。
55	364-046	砂子沢	真室川町大字大沢837字砂子沢	扇状地・崖壁・自然堤防	80	鮎川					◎	◎				槽式炉が検出 / 石構(中期) /
56	364-033	滝 / 沢山 (H14県分布) (センター)	真室川町大字大沢字滝 / 沢山6016-62	高位・中位段丘面	134	鮎川		◎	◎							土坑(後期)・柱穴 / 土器・石器 /
57	364-059	オクミ館跡	真室川町大字木下	低位段丘面	68	鮎川	◎									土坑(後期)・陥穴4(時期不明)・柱穴(中期)・焼土 / 土器・石器・遺物3箱 / 早期・前期・後期もあり。狩猟場やキャンプサイトの的な性格
58	364-052	木の下	真室川町大字木下の639	低位段丘面	75	真室川								-	-	県分布(28)
59	364-029	小川内	真室川町大字大沢字恵太郎2029他	低位段丘面	107	小又川								◎		県遺跡台帳・県分布(24)・小林2001
60	364-047	片杉野	真室川町大字平岡?	低位段丘面	110	金山川										県分布(21)遠佐町教委神矢田3～5次)
61	364-069	塩野	真室川町大字平岡字塩野1796他	低位段丘面	109	金山川					◎	◎				大蔵村史・県史考古資料
62	364-049	糸出	真室川町大字平岡字糸出	低位段丘面	100	金山川								◎		県分布(13)
63	364-022	川の内	真室川町大字川の内の内字平林山	低位段丘面	90	真室川								-	-	県遺跡台帳・県分布(1)・小林2001
64	364-056	正源寺境内	真室川町大字新町	低位段丘面	80	真室川								-	-	県遺跡台帳・小林2001
65	366-001	木の根坂・沼の台	鮎川村大字曲川字沼の台4-123	谷底平野・氾濫原・低湿地	160	西郡川					◎					県遺跡台帳・鮎川村史
66	366-047	真木	鮎川村大字佐渡字真木1819	段丘(Ⅲ)	50	鮎川										県遺跡台帳
67	366-018	小反	鮎川村大字京塚字小反704	段丘(Ⅲ)	70	最上内川			◎		●	●				竪穴住居14(大木9・8・大木10・6)・堀立柱1(大木9～10)・貯蔵穴7(後期初頭)・陥穴7(大木9・式不明)・土坑1(大木9・式不明)他土器・石器・田舎焼酎製品・陶片方形瓦(大木10) / 大木9・10式期の集落跡。堀立柱遺物群も伴う。直径9m超の大型竪穴住居跡あり。
68	366-040	上大洲	鮎川村大字川口字野中沢1466	段丘(Ⅲ)	60	鮎川			◎	◎	◎					県遺跡台帳・鮎川村史
69	366-045	小和田	鮎川村大字中渡字小和田1156	自然堤防・滑走斜面	60	曲川		◎								県遺跡台帳・鮎川村史
70	366-038	観音寺	鮎川村大字庭月字観音寺2825	段丘(Ⅲ)	80	鮎川			◎	◎						県遺跡台帳
71	366-037	庭月観音堂	鮎川村大字庭月字観音寺2829	段丘(Ⅲ)	80	鮎川			◎	◎						県遺跡台帳

表 13 最上川中・下流域の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期	7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	南 1	南 2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
		(蛙川村教委)																
72	366-010	石名坂	蛙川村大字石名坂字長沢前 525-1	谷底平野および 尾瀬原	130	最上内川											配石遺構 11・立石(大木 10?) / 土器・石器・石棒 28・石冠(中期末) / 中期末と思われる円形や方形の配石遺構群がまぎって検出	蛙川村教委「庭自前音堂遺跡」
73	367-032	野呂田 B(安ヶ沢)	戸沢村大字松沢天ヶ沢 1545	低地・扇状地	50	蛙川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
74	367-029	名高	戸沢村大字名高 962	段丘 (III)	40	蛙川											/ 土器 /	県遺跡台帳
75	367-042	猪ノ鼻	戸沢村大字古口字猪ノ鼻 3039	自然堤防・ 滑走斜面	30	最上川											/ 土器・石器・円形岩板・円形土板 /	県遺跡台帳・県分布 (12・14)
76	367-005	別当屋敷	戸沢村大字古口字坂屋敷 2786	自然堤防・ 滑走斜面	40	角川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
77	367-041	津谷	戸沢村大字津谷字糠打野 1330	段丘 (III)	53	蛙川											竪穴住居 1(時期不明)・土坑 21 以上(後期初頭～前葉)・埋設土器 2(後期初頭)・立石 10(後期初頭～前葉?)・河川跡 1・遺物 64 箱 / 土器・土偶 1(後期前葉?)・土製品 1・円盤状土製品・線刻石製品 /	県遺跡台帳
78	367-044	上の山	戸沢村大字蔵岡上の山 2905 - 7	自然堤防・ 滑走斜面	57	最上川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (10)
79	367-036	出舟	戸沢村大字蔵岡出船 2712 - 2	段丘 (III)	43	最上川											/ 土器・石器・土偶 /	県遺跡台帳・県分布 (34)
80	367-046	向名高	戸沢村大字名高字糠打野	段丘 (III)	50 ~ 56	蛙川											竪穴住居 3(大木 9・1・中期末・1・不明 1)・土坑 4 / 土器・遺物 5 箱 /	県分布 (23)
81	421-023	片倉	庄内町(旧立川町)肝煎字大平	段丘 (II +)	100	立谷沢川											/ 土器 /	県遺跡台帳
82	421-029	東栗野 B	庄内町(旧立川町)狩川大堰台	段丘 (III)	46 ~ 49	最上川											竪穴住居 5(大木 6・3・大木 8a・2)・土坑 38(大木 6・7a・8a・8b) / 土器・石器・土偶 4(大木 8b)・遺物 131 箱 /	県 44 集
83	421-016	桶山	庄内町(旧立川町)狩川字桶山 213-1	段丘 (I +)	30	最上川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
84	421-017	山崎 A	庄内町(旧立川町)狩川字小堤 24-37	丘陵地 (II)	50	京田川											/ 土器 /	県遺跡台帳
85	463-005	丸子沢 B	酒田市(旧松山町)成興野字箕輪 16-1	山地・山腹・ 山麓緩斜面	25	最上川											/ 土器・多頭石斧 /	県遺跡台帳
86	463-020	徳田山	酒田市(旧松山町)徳田字丸福 134	段丘・段丘 (II)	20	最上川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (15)
87	463-023	石名坂	酒田市(旧松山町)相沢字宮下 33	段丘・段丘 (III)	30	相沢川											/ 土器・石刀・石棒・独鈷石 /	県遺跡台帳
88	464-023	山谷新田	酒田市(旧平田町)山谷新田字山海 50 他	丘陵・丘陵地 (II)	25	相沢川											/ 土器・石器 / 三角柱土製品 /	県史考古資料・県分布 (13)
		(県調査)															/ 土器・新保・新崎式・石器 / 北陸系の土器や土偶が出土。	県 170 集
89	464-042	山海竊跡群	酒田市(旧平田町)山谷新田字山海	丘陵地 (II)	40	相沢川											土坑 6(中期) / 北陸系土器(新保式?) / 山谷新田に隣接、A 区でフラスコ状土坑等が検出。	県 170 集
90	464-021	山樺 3	酒田市(平田町)大字山樺	丘陵地 (II)	108	相沢川											竪穴住居 1・土坑・地床炉(時期不明) / 土器・北陸系土器・石器 /	センター 4 集
91	464-027	西山	酒田市(旧平田町)山谷字西山	丘陵地 (II)	38	相沢川											竪穴住居?・土坑・柱穴(以上中期) / 土器・石器 /	県分布 (23)・(25)
92	204-029	黒森	酒田市大字黒森	砂丘および砂浜	2	赤川											/ 土器 /	県分布 (28)
93	204-002	藤山	酒田市飛鳥字勝浦	段丘 (I)	45												竪穴住居 2(前期?)・土坑 6(中期)・捨て場 1 / 土器・円筒土層 b 式・新崎式・石器・三脚石器・土坑内からフナガタはたとの骨出土。遺物 40 県 189 集	
		(県調査)															捨て場 1(中期前半) / 土器・石器・円筒土層 b ~ e・新崎式 /	
		(芸工大)															炉跡 / 土器・石器 /	芸工大第 10 刷
94	204-001	葡萄崎	酒田市飛鳥字勝浦	段丘 (I)	45												/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (18)
95	462-058	泥沢	酒田市(旧八幡町)泥沢字大峯 83 他	山地の山腹・ 山麓緩斜面	260	日向川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (27)
96	462-005	藤台	酒田市(旧八幡町)下青沢字蔵台	山地の山腹・ 山麓緩斜面	177	荒瀬川											竪穴住居 8・土坑(遺構は後期初頭～前葉) / 土器・石器・土層 5 / 後期初頭から前葉の短期間の集落か。	センター 5 集
97	462-033	大峯 1	酒田市(旧八幡町)泥沢字大峯	山地の山腹・ 山麓緩斜面	288	日向川											/ 土器・石器 /	県分布 (19)
98	462-065	松原	酒田市(旧八幡町)下黒川字松ヶ峰	段丘 (I +)	180	日向川											/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (14)・(18)・(19)

表 14 最上川中・下流地の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期 中期 7a 7b 8a 8b 9 10	後期 初頭 南1 南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
99	462-069	小平 3	酒田市(旧八幡町)市条字小平地	段丘(1+)	75～80	日向川	—	—	/土器・石器 /	センター 128 集
100	204-078	小平 4	酒田市(旧八幡町)市条字小平地	段丘(1+)	71	日向川	◎	—	土坑 7 以上 (8a・後期中葉)・埴埴 2 (8a・後期中葉) 他 / 土器・石器 / センター 139 集	センター 139 集
101	462-031	八森 A	酒田市(旧八幡町)市条字八森	丘陵地(1)	38～72	荒瀬川	◎	○ ◎	竪穴 3 (前期)・地床炉 2 (前期・7a)・埋設土器 4 (南境 1) / 土器・石器 / 八幡町 13 集	八幡町 13 集
102	462-067	物見森 4	酒田市(旧八幡町)上黒川字物見森・火山の山頂・山麓緩斜面 字大台地	火山の山頂・山麓緩斜面	341～345	草津川	○	—	竪穴住居もしくは土坑の土色変化・ピット 3 / 土器・中期初頭北陸系土器・石器 / 県分布 (20)	県分布 (20)
103	461-015	川東	遊佐町大字当山字若林	火山の山頂・山麓緩斜面	50	洗沢川	—	—	/ 土器 /	県遺跡台帳
104	461-099	下当山	遊佐町大字当山下当山桜林	火山の山頂・山麓緩斜面	60	中折川	—	○	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
105	461-160	宮山坂 A	遊佐町大字吉出字宮山坂 71	扇状地・崖雉	60	月光川	—	○	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
106	461-161	宮山坂 C	遊佐町大字吉出字宮山坂 71	扇状地・崖雉	80	月光川	—	○ ○	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
107	461-175	金俣 B	遊佐町大字吉出字金俣 185 他	火山麓扇状地・低い段丘面	160	月光川	○	○	住居 1 (早期)・柱穴 9 / 土器・石器 / 県遺跡台帳・県史考古資料 県分布 (14)・(18)	県遺跡台帳・県史考古資料 県分布 (14)・(18)
108	461-158	月野原 A	遊佐町大字杉沢字嶽の腰	火山の山頂・山麓緩斜面	260	庄内熊野川	○	—	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県分布 (13)
109	461-178	嶽の腰	遊佐町大字杉沢字嶽の腰	谷底平野・氾濫原・低湿地	160	月光川	—	—	/ 土器 /	県遺跡台帳
110	461-145	杉沢 C	遊佐町大字杉沢字中田北ノ前	谷底平野・氾濫原・低湿地	75	庄内熊野川	—	○	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
111	461-128	天狗森 D	遊佐町大字鹿野沢字天狗森	山地および火山地の山麓・山麓緩斜面	130	日向川	—	○	/ 土器 /	県遺跡台帳
112	461-047	小長坂	遊佐町大字吹浦字小長坂・布倉	火山の山頂・山麓緩斜面	25～40	—	○	—	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
113	461-054	小屋林道西	遊佐町大字吹浦字小屋林道西・内林・戸の内	火山の山頂・山麓緩斜面	68	—	—	—	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
114	461-024 ～026	吹浦 (県 1 次) (県 2 次) (県 3・4 次)	遊佐町大字吹浦字堂屋・赤坂・一本木	泥流台地	5～16	牛渡川	◎ ○	—	竪穴住居 2 (大木 6)・土坑 93 / 土器・石器・遺物 79 箱 / 遺構は前期末 県 82 集 竪穴住居 6 (大木 6)・土坑 131 (大木 6・7a) / 遺物 126 箱 / 竪穴住居な 県 93 集 この主な遺構は前期末 式・石器・土器・土製品 / 土器・中期初頭 / 土器・円筒上層 a 式・石器・土製品・土器 (前期)・石棒 (時期不明)・球状耳飾 (石製 3・土製 6・前期)・玉斧・円盤状土製品 (前期) /	県 82 集 県 93 集 県 120 集
115	461-022	小谷地	遊佐町大字吹浦字小谷地 12	山地および火山地の山麓・山麓緩斜面	8	牛渡川	○	—	/ 土器 /	遺跡台帳・県分布 (8)
116	461-033	小山崎 (4 次・センター) (県試掘報告) (第 2 次・県博) (第 3 次・県博) (第 5 次・県博)	遊佐町大字吹浦字紫燈林・七曲・七曲堀ノ東他	山地および丘陵地・中・急斜面・低湿地	5	牛渡川	◎ ○ ◎ ● ● ◎ ○ ◎	◎ ◎ ◎	勾倉 (前期～晩期)・柱根 (後期中葉?)・水場遺構 1・敷石列 2 (後期・晩期) / 土器・新保・新崎式・石器・石棒・土俵 4 (後期中葉頃?)・珠状耳飾 (前期)・耳飾 (後期)・土器・石棒 (晩期)・石製垂飾品・木製品 (前期・後期～晩期)・動物遺体・植物遺体 / 土器・石器・縄文土器 86 箱 (早期～晩期)・動物遺体・石器・骨角器・土製品・木製品 / トレンチ 11 本設定。動物・植物遺体が残る包含層・T9 の北 2 区東西拡張区で、打ち込み式の柱根列と配石 (後期) が後出。 建物跡 1 (後期中葉)・水場遺構 1 (晩期)・土坑・柱穴 / 土器・石器・漆塗土器他・土俵・土製品・骨角器・動物遺体・遺物 73 箱 / トレンチ 2 本・県博物館 2001 早期末～晩期 敷石遺構 / 土器・新保式・石器・土俵・木製品・動物遺体・遺物 50 箱 / 県博物館 2001 敷石遺構・焼土・ピット・埴埴 / 土器・石器・土俵・石棒・漆器・骨・種子・遺物 20 箱 / 5 次トレンチ 9 本、前期～晩期	センター 91 集 県分布 (23)・(24)・(25)

表 15 最上川中・下流域の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭	後期 南1	南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
		(第6次・県博)														自塚 / 土器・馬高式・石器・動物遺体・人骨・骨角器・遺物 30 箱 / トレン子 3 か所調査・前期～後期	県博物館 2002
		(第7次・県博)														/ 土偶 (北陸系中期前葉)・丸木弓・釣り針・漆塗り糸玉・漆製品の腕輪 /	県博物館 2003
		(第8～11次遊佐町)														10 次 I 区・包含層 (前期～晩期) / 土器・堀之内 1 式・三十稻場式・石器・石冠 (中期)・土偶・遺物 56 箱 /	遊佐町 4 集
		(第12次遊佐町)														遺物包含層 (前期～晩期) / 土器・堀之内 1 式・南三十稻場式・石器・骨角器 2 および魚骨・獣骨類 (後期前葉) /	遊佐町 5 集
		(第13次遊佐町)														土坑・柱穴ほか / 土器・堀之内 1 式・石器・土偶・石刀・石棒 / 早期後葉～晩期前葉の時期	遊佐町 6 集
		(第14次遊佐町)														竪穴住居 2 (大木 9・1・後期-1)・包含層・柱穴 / 土器・新保式・十腰内 1 式・堀之内 1 式・石器 /	遊佐町 7 集
		(第15次遊佐町)														竪穴住居 5 (大木 10・2・他は中期後未葉) / 土器・新保式・十腰内 1 式・石器・土偶 1 (大木 9)・遺物 40 箱 /	遊佐町 8 集
		(第16次遊佐町)														竪穴住居 4・住居跡可能性遺構 5 (以上は中期末・後期前葉・中葉・後葉) / 遺物 28 箱 / 中期末葉～後期全般にかけての集落跡	遊佐町 9 集
		(第17・18次総括編)														竪穴住居 14 (大木 10・3・中期末～後期初・2・後期中葉・2・他)・竪穴状 4 (後期後葉・1 他)・低湿地麻草場 (中期初頭～末葉)・水辺遺構 (後期前葉～晩期中葉) / 新保式・新崎式・馬高式・木製品・動物遺体・骨角器・土偶 (後期中葉～晩期)・異形石器・石棒・石刀・石剣・土製品 / 早期～晩期	遊佐町 10 集
117	461-036	丸池	遊佐町大字吹浦字紫燈林ほか	山地および丘陵地・2 中・急斜面	2 ～ 15	牛渡川	○	○						○		/ 土器 /	県史考古資料
		(遊佐町分布)														竪穴遺構 3・土坑 4・柱穴ほか / 土器・馬高式・石器 / 遊佐町試掘・晩期もあり	遊佐町 7 集
118	461-039	柴燈林	遊佐町大字吹浦字紫燈林	山地・火山地の山腰・山麓緩斜面	30	牛渡川	○	◎	◎	○						/ 土器・馬高式・石器 /	県遺跡台帳・遊佐町史上
		(遊佐町分布)														8 地区・土坑・埋設土器・ピット / 土器・馬高式・石器・包含層 (中期) /	遊佐町 4 集
119	461-040	柴燈林 2	遊佐町大字吹浦字紫燈林	山地および丘陵地・50 中・急斜面	50 ～ 60	牛渡川							-	-		/ 土器 /	遊佐町 4 集
120	461-042	牛渡 1	遊佐町大字吹浦字紫燈林?	山地・火山地の山腰・山麓緩斜面	30 ～ 37	牛渡川	○	○	◎	○						C 地区・竪穴住居・石組・包含層 (7b ～ 9) / 土器・新崎式・石器 / 8b 式期が主	遊佐町 4 集
121	461-030	舟森	遊佐町大字直世字舟森・五反割	谷底平野・氾濫原・2 低湿地	15	吹浦川					○			○		/ 土器・石器 /	県分布 (20)・(23)
122	461-016	下山	遊佐町大字直世字目倉神	山地・火山地の山腰・山麓緩斜面	10	滝沢川			-	-						/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県史考古資料
123	461-023	小倉向	遊佐町大字直世字小倉向	山地・火山地の山腰・山麓緩斜面	45	滝沢川	○	○	○	○	○					/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
		(遊佐町分布)														住居跡・土坑・包含層 (中期) ほか / 土器・新保式?・新崎式・馬高式・石器・土製耳飾 / 大木 8a 式期遺物が多い	遊佐町 1 集
124	461-020	山居	遊佐町大字直世字山居	山地および丘陵地・中・急斜面	40	滝沢川			-	-						/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
125	461-205	榎ノ内 B	遊佐町大字吉出字榎ノ内	火山麓扇状地・低い段丘面	170	山田川			-	-						/ 土器・石器 /	県分布 (14)
126	461-189	竜沢山	遊佐町大字野沢字水上	扇状地	40	野沢川	○	●	●	●						土坑 1・ピット (中期) / 土器・石器 /	県分布 (24)
																竪穴住居 2 (8a・1・8b-1)・柱穴 200 (中期中葉・晩期) / 土器・石器遺物 4 箱 /	県分布 (26)
127	461-206	神矢田	遊佐町大字北目字神矢田	扇状地・崖・自然堤防	15	高瀬川					○	○	○	○	○	竪穴住居 2 (後期末)・石組 1 (後期前半) / 土器・石器・石棒 9・石刀 3・土偶 9 (中期末・後期・晩期)・土製耳飾 3・スタンツ形土製品 (晩期)・石製垂飾品 12 (晩期中心部) /	遊佐町教委「神矢田遺跡 1・2 次」
		(遊佐町 1・2 次)														住居 (晩期後半)・炉跡 (晩期)・石組遺構 / 土器・三十稻場式・石器・石刀 1・石剣 6・石棒 3・石冠 1・土偶 7 (晩期)・土製耳飾 4 (晩期)・玉 16 3・4・5 次 (晩期前)・土版 1 (晩期) /	遊佐町教委「神矢田遺跡 3・4・5 次」
		(遊佐町 3 ～ 5 次)														/ 土器 /	県遺跡台帳・県分布 (13)
128	461-063	小野曾 C	遊佐町大字吹浦字小野曾	火山の山頂・山麓緩斜面	120	牛渡川			○							/ 土器・石器・青銅製刀子・唐陶片 /	県遺跡台帳・柏倉亮吉 1961
129	461-087	三崎山 A	遊佐町大字吹浦字三崎山	火山の山頂・山麓緩斜面	70					○				○		/ 土器・石器・青銅製刀子・唐陶片 /	県遺跡台帳・柏倉亮吉 1961

表 16 最上川中・下流地の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	時期 中期 7a 7b 8a 8b 9 10	後期 初頭 南 1 南 2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
130	461-088	三崎山 A	遊佐町大字吹浦字三崎山	火山の山頂・ 山腹緩斜面	40		○	—	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・柏倉亮吉 1961
131	461-105	三崎山 C	遊佐町大字吹浦字三崎山	火山の山頂・ 山腹緩斜面	60		○		/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・柏倉亮吉 1961
132	423-010	藤九郎清水 C	鶴岡市(旧藤島町)東掘越五輪沢田 段丘(1+)	段丘(1+)	40	京田川	—	—	/ 土器 /	県遺跡台帳
133	423-064	郷の浜 A	鶴岡市(旧藤島町)藤島町東掘越郷 の浜	丘陵地(II)	60	京田川	—	—	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳・県史考古資 料
134	424-001	郷の浜 J	鶴岡市(旧羽黒町)手向薬師沢	丘陵地(1)	93	笹川	○		土坑(大木 6)/土器・新保・新崎式・円筒上層 a 式・石器 / 中期初頭の 北陸系土器が主体	県 50 集
135	番号なし	手向 B	鶴岡市(旧羽黒町)手向字薬師沢	丘陵地(1)	80	藤島川	○		/ 土器・朝日下層式(前期)・石器 /	県遺跡台帳
136	番号なし	手向 F	鶴岡市(旧羽黒町)手向	丘陵地(1)	80		—	—	/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
137	424-018	玉川 A	鶴岡市(旧羽黒町)玉川字玉川	扇状地	85	藤島川	○	○	○	県遺跡台帳・県史考古資 料
138	424-013	玉川 A	鶴岡市(旧羽黒町)玉川字玉川	扇状地	100	藤島川	○	○	○	県遺跡台帳・県史考古資 料
139	424-026	玉川 C	鶴岡市(旧羽黒町)玉川字白山前	扇状地	95	藤島川	○	○		県遺跡台帳・県史考古資 料
140	424-045	玉川 D (県 S57 分布) (県 H 2 分布)	鶴岡市(旧羽黒町)玉川袋樋	台地および段丘・ 火砕流	132	藤島川	◎	○		県遺跡台帳 羽黒町史上巻
141	424-077	中野	鶴岡市(旧羽黒町)川代字中野	段丘(III)	140	藤島川		○	○	県遺跡台帳
142	424-086	早坂 A	鶴岡市(旧羽黒町)川代西増川山	火砕流台地	110	藤島川	—	—	○	県遺跡台帳
143	424-081	早坂 B	鶴岡市(旧羽黒町)川代西増川山	火砕流台地	110	藤島川		○		県遺跡台帳
144	424-073	下川代 B	鶴岡市(旧羽黒町)下川代中野	段丘(III)	140	笹川	—	—	○	県遺跡台帳・県史考古資 料
145	424-071	上山	鶴岡市(旧羽黒町)玉川東増川山	火砕流台地	150	藤島川	—	—	○	県遺跡台帳
146	424-053	院主南	鶴岡市(旧羽黒町)手向院主南	火砕流もしくは 泥流地形	200	京田川	—	—	○	県遺跡台帳
147	424-106	羽黒山 B	鶴岡市(旧羽黒町)手向羽黒山	火砕流もしくは 泥流地形	350 ~ 360	(京田川)	—	—	○	県遺跡台帳
148	424-101	羽黒山 C	鶴岡市(旧羽黒町)手向羽黒山	火砕流もしくは 泥流地形	350 ~ 360	(京田川)	—	—	○	県遺跡台帳
149	番号なし	中川代	鶴岡市(旧羽黒町)川代字大正	火砕流もしくは 泥流地形	226 ~ 223	藤島川		○		羽黒町教委 1996「中川代 遺跡」
150	424-110	村山	鶴岡市(旧羽黒町)川代東増川山	火山山麓地	285	藤島川	—	—	○	県遺跡台帳
151	424-048	川代山 D	鶴岡市(旧羽黒町)川代川代山	火砕流台地	86	藤島川		○		県遺跡台帳
152	424-022	一本松 A	鶴岡市(旧羽黒町)仙道一本松	火砕流台地	45	今野川	○	—	—	県遺跡台帳
153	424-025	一本松 B	鶴岡市(旧羽黒町)仙道一本松	火砕流台地	50	今野川		○		県遺跡台帳
154	424-111	東山 B	鶴岡市(旧羽黒町)上野新田東山	火砕流もしくは 泥流地形	160	黒瀬川		○		県遺跡台帳・県史考古資 料
155	424-122	海谷森	鶴岡市(旧羽黒町)川代西増川山 丘陵地?	山地および 丘陵地	250	藤島川	—	—	—	県遺跡台帳
156	425-005	丸山	鶴岡市(旧柳引町)黒川上堤 (上位)	台地・砂礫台地	80	田沢川		○		県遺跡台帳・県史考古資 料
157	425-025	三礎林	鶴岡市(旧柳引町)黒川字三礎林	砂礫台地	98 (赤川支流)	田沢川	○			県 6 集

表 17 最上川中・下流域の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	7a	7b	8a	8b	9	10	初期	後期	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
158	425-017	たらの木代 F	鶴岡市 (旧柳引町) たらの木代	山頂緩斜面および丘陵地・急斜面	245	(小黒川)	-	-							竪穴住居 3・土坑 3・柱穴群 / 土器・石器 / キャンプサイトの性格	県分布 (32)
159	425-003	柳沢 A	鶴岡市 (旧柳引町) 西荒屋字柳沢	山地および丘陵地・急斜面	85	水無川 (赤川支流)		○							土坑 12 (中期前葉あり)・柱穴 / 土器・中期前葉北陸系土器・石器 / センター 6 集	
160	427-023	栗山	鶴岡市 (旧朝日村) 熊出字栗山	台地 (上位)	110	赤川		○		●					竪穴住居 (8b・4・中期中葉?・1)・土坑 10 (中期・弥生) 他 / 土器・中期前葉の北陸系土器・石器・遺物 7 箱 / センター 6 集	
161	427-038	岡村	鶴岡市 (旧朝日村) 熊出字岡村	谷底平野	76	赤川						○			竪穴住居 1 (早期末～前期初頭)・土坑 6 (大木 10)・柱穴 / 土器 / 県分布 (22)	
162	427-055	仲台	鶴岡市 (旧朝日村) 熊出字仲台	山地および丘陵地 (急斜面)	92	赤川							○		竪穴住居 1 (時期不明)・土坑 13 (後期末～晩期) 他・土器・石器 (遺物 12 箱・大半は後期末～晩期) / センター 6 集	
163	427-003	野新田 (朝日村調査 S46・47) (センター)	鶴岡市 (旧朝日村) 中野新田字村表 (下位)	扇状地・砂礫台地 (下位)	80	赤川		○	○	●	●	○			県遺跡台帳 複式戸 2 // 佐々木 1972「庄内考古学」11 竪穴住居 59 (8b・19 棟以上・9・2 棟以上、その他は不明)・土坑 139・埋設土器 2 (8b) 兼石・包合層 (7b)・河川跡 1 (8b) / 土器・石器・土甕 4 (8b)・異形石器 3・円蓋状土製品・煙管状土製品・石棒 5 (中期)・センター 40 集 石冠 3・球状首飾 1・遺物 404 箱 / 大木 8 b 式期の集落跡・墓と推定される栗石遺構も確認。	
164	427-017	中入	鶴岡市 (旧朝日村) 中野新田字村表 (上位)	台地・砂礫台地 (上位)	120	梵字川			○						/ 石器・土偶頭部 / 県遺跡台帳・県史考古資料	
165	427-029	笹目	鶴岡市 (旧朝日村) 中野新田字村表 (下位)	台地・砂礫台地 (下位)	105	大鳥川			-	-	○				/ 土器 / 県遺跡台帳	
166	427-039	東岩本	鶴岡市 (旧朝日村) 中野新田岩坂	台地・砂礫台地 (下位)	40	赤川					○	○			/ 石器・石棒 / 県遺跡台帳・県史考古資料	
167	427-009	穴の上 (H9 県分布)	鶴岡市 (旧朝日村) 本郷字穴の上 8 地	台地・砂礫台地 Gt II (下位)	106	大鳥川							◎	○	/ 土器・石棒 / 土坑 4 (後期中・後葉)・落込み 4 (後期初頭)・包合層 / 土器・石器・円蓋状土製品・遺物 7 箱 / 県分布 (25)	
168	427-025	田妻俣 A	鶴岡市 (旧朝日村) 田妻俣柳清水	山地および丘陵地 (急斜面)	600	田妻川							-	-	/ 土器 / 県遺跡台帳	
169	427-031	田妻俣 B	鶴岡市 (旧朝日村) 田妻俣中台	山地および丘陵地 (急斜面)	560	田妻川							-	-	/ 石棒 / 県遺跡台帳	
170	427-016	砂川 A (S56 村調査)	鶴岡市 (旧朝日村) 砂川字山崎	砂礫台地 Gt II	120	赤川 (大鳥川)			○	○	○	◎		○	/ 土器・石剣・石棒・玉 / 住居跡 7 (後期末 1・晩期 6)・土坑 14 (大木 10・後期末・晩期)・配石・遺構 5 (晩期)・埋設土器 13 / 土器・石器・土甕 28 (中期・後期後半～晩期)・土版 5 (晩期)・スタン状土製品 2・首飾 11・腕輪 1・玉類・石棒 94・石剣 50・石刀 3・短針石 4・石冠 2・岩版 1 (晩期)・異形石器 4・鹿角製鉄 1・遺物 277 箱 / 遺物の時期は後期末～晩期中葉が中心 小林 2001	
171	203-210	河倉 A	鶴岡市東目河倉 2	山地および丘陵地・山麓緩斜面	350	田俣川				○					/ 土器 / 県遺跡台帳	
172	203-211	河倉 B	鶴岡市東目河倉 2	山地および丘陵地・山麓緩斜面	300	栗田俣川		○	○	○	○	○	-	-	/ 土器・石器 / 県遺跡台帳	
173	203-137	岡山 (A) (1 次・致道博物館) (2 次・致道博物館) (3 次・致道博物館) (4 次・鶴岡市教委) (5 次・鶴岡市教委) (6 次・県調査)	鶴岡市岡山六供・藤沢軽井沢	丘陵地 (II)	69	湯原川		○	○	●	●	○			/ 土器・土偶 (中期) / 県遺跡台帳・大泉村史・庄内考古 2・3 号 佐々木七郎 1967 県 4 集 第Ⅲ地点で竪穴住居 1 (前期中葉) // 第Ⅴ地点で竪穴住居 2 (中期中葉) 第Ⅶ地点は縄文後期 // 県 4 集 竪穴住居跡 2 (前期)・2 (中期中葉) // 第Ⅹ・ⅩⅡ地点 竪穴住居 2 (縄文前期)・土器・石器・石冠 1 (中期)・石棒 3・石剣 (時期不明)・垂飾品 (時期不明) / 墓区地点 鶴岡市教委 1975「岡山遺跡調査 5 次」・県 4 集 県 4 集	
174	203-109	桜台 A	鶴岡市田川七日台	丘陵地 (I)	80	小連寺川				○	○				/ 土器・石器 / 県遺跡台帳	
175	203-130	関根 C	鶴岡市関根橋の下	山地および丘陵地・中・急斜面	140	大山川					○				/ 土器・石器 / 県遺跡台帳	
176	203-139	関根 D	鶴岡市関根実俣	山地および丘陵地・中・急斜面	100	虚空蔵川					○				/ 土器・石器 / 県遺跡台帳	

表 18 最上川中・下流地の縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	7a	7b	8a	8b	9	10	後期 初頭 南1	後期 南2	遺構 / 出土遺物 / 備考	文献
177	203-103	高田 A	鶴岡市大字田川字高田	氾濫原・谷底平野	40	大山川								○	土坑 2 (後期中葉)・埋設土器 1 / 土器・石器・石棒 7 (晩期)・遺物 15 箱 鶴岡市教委『高田 A 遺跡』	
178	203-171	中里 A	鶴岡市田川宮の前	丘陵地 (I)	40	大山川			○	○					/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
179	203-165	万治ヶ沢	鶴岡市大字矢引字万治ヶ沢	山地および丘陵地・中・急斜面	80 ~ 89	大戸川			○				—	—	土坑 1・陥穴 2・炉跡 1 (時期不明) / 土器・石器 /	センター 172 集
180	203-052	山口 A	鶴岡市西目上野山	山地および丘陵地・中・急斜面	20	大戸川		○	○	○	○				土坑 (大木 6) / 土器・石器・石棒 /	県遺跡台帳 県史考古資料 県分布 (16)
181	203-014	火打崎 A	鶴岡市西目深田	山地および丘陵地・中・急斜面	20	大戸川			○	○					/ 土器・石器 /	県遺跡台帳
182	203-025	西向	鶴岡市大字中山字西向	山地および丘陵地・中・急斜面	65	降矢川	●	●				●			竪穴住居 14 (新保 II - 10・中前期前葉 - 1・大木 7 中相 - 1・大木 10 - 1)・埋設土器 1 (新崎 I)・土坑 6 以上 / 新保式・新崎式・戸面上層 a・b 式・石器・有孔石製品 4・遺物 32 箱 / 中前期前葉を中心とした集落・北陸系土器が中心。	センター 130 集
183	441-009	川内袋	鶴岡市大字五十川字川内袋	山地および丘陵地・中・急斜面	25	五十川	—	—	—	—			○		竪穴住居 7 (前期)・土坑 (前期・後期)・陥穴他 / 土器・石器・珠状耳飾 (前期)・遺物 466 箱 (ほとんどは前期前葉から未葉) /	センター 197 集
184	441-006	菅野代 A	温海町菅野代宮の下	低地・自然堤防・崖錐	190	五十川					○	○			/ 土器 /	県遺跡台帳
185	441-031	一霞	温海町一霞宮の台	段丘 (III)	100	温海川		○							/ 土器・新保・新崎式・石器 /	県遺跡台帳・温海町史
186	441-033	木野俣 D	温海町木野俣不動滝	谷底平野・氾濫原 ほか	160	小国川				○	○		—	—	/ 土器 /	県遺跡台帳・県史考古資料
187	441-013	小名部	温海町小名部桂谷	山地および丘陵地・中急斜面	230	鼠ヶ関川					○	○	—	—	/ 土器 /	県遺跡台帳・県史考古資料
188	441-007	家の平	温海町大字大岩川字家の平	低地・扇状地・崖錐	22	小国川	—	—							/ 土器・中前期前葉北陸系土器・石器 /	県分布 (28)